

社会福祉法人 育明会

事業所別 報告書

平成30年度

事業報告書

特別養護老人ホーム

レジデンシャル百合ヶ丘

介護老人福祉施設（ユニット型）

介護老人福祉施設（従来型）

短期入所生活介護

介護予防短期入所生活介護

目次

1. 財務	2
2. 組織	2
3. サービス	3
4. 事務管理体制	4
5. 防災対策及び施設の保全対策	4
6. リスクマネジメント	5
7. 諸規定の遵守及び検討	5
8. 人材育成	5
9. 利用者の権利擁護	8
10. 地域との連携	8
11. 委員会活動	11
12. 行事・クラブ活動	11
13. 援助サービス各論	14
14. 短期入所生活介護サービス	22
15. 平成30年度活動一覧	23
16. 各部署・委員会等からの活動報告	26

1. 財務

(1) 入居稼働率の状況

特養入居については、上半期の入居稼働は前年度末の稼働率 53.8%を上回ることができず、法人の経営に大きな影響を及ぼした。この要因を分析し、改善に取り組んだ結果、稼働率は徐々に上がり今年度末には 79.0%となった。今年度中に 100%のベッド稼働を目指したが、叶わなかった最大の要因は“介護職員の確保の厳しい状況”であったことは言を俟たない。

職員の定着については、下半期からは一定の成果はあったが、ベッド稼働率 100%のための介護職員の確保には、依然として厳しい状況が続いている。求人活動のための様々な媒体の活用、人材派遣・紹介業者の利用、等は何れも多くの経費を擁しながらも、その効果が乏しい状況であった。

(2) 介護職員処遇改善加算に伴う賃金体系の確立

介護職員処遇改善加算 I を取得し、当初から一部本俸化を図り、介護職員の人材確保を目標の一つに据えて適切に支給した。

(3) 法人事業計画に基づく財務諸表の健全化

貸借対照表や収支計算書及び監事監査意見書等の公表は、事業所単位としては初めてとなるが、何人も閲覧できるようホームページで公表していく。

2. 組織

(1) 組織力の強化

平成 29 年 8 月 1 日外池施設長就任、同年 10 月より組織体制の整備等を行って運営を行ってきたが、上半期の稼働率、職員の確保、定着率の低下等は止まらず、その対策は喫緊の課題であったため、平成 30 年度下半期から施設長含み大幅な人事異動を行い組織力の強化を図った。

施設長をはじめとする管理・監督職員で構成した管理職会議 及び 副主任を加えた拡大管理職会議の開催や、職員会議を定例開催することにより、施設運営全般に関する情報の共有を図ることに努めている。

(2) 人材の確保とキャリアアップ

10月以降の組織力の強化の成果として、職員の定着については一定の成果はあったが、介護人材の確保には依然として厳しい状況が続いている。

求人活動のための様々な媒体の活用、派遣・紹介業者の利用、等は何れも多く経費を擁しながらも、その効果が乏しい状況であった。

そのような中でも、職員個々の能力開発やキャリア形成を図るための各種研修を行ってきた結果、非常勤雇用の職員の中から常勤介護職員へ、また非常勤職員の雇用のままではあるが、就労時間の延長、業務の拡大、望む職員が増えてきおり、人数としては少ないが優秀な人材の確保という成果に繋がっている。

(3) 様々な形態での情報発信

ホームページとスタッフブログ等のインターネットを活用しての情報発信を行ってきたが不定期的な発信であった。次年度は広報委員会を中心とした担当者を設け、第三者の目線でタイムリーな情報の発信に努めたい。

3. サービス

人材の確保及び定着に課題の多い1年であったが、その影響による入居者への施設サービスの低下を防ぐために、姉妹施設であるレジデンシャル常盤台より、多くの支援をいただき日常のケアサービスの低下を防ぐことに繋がっている。

ケアサービスの向上や標準化、年中行事やクラブ活動等アクティビティの実践、等については、各種委員会等が企画、運営に努め、ご利用者・ご家族、さらに地域住民の方々にも、喜びや楽しみを提供することができたのは大きな成果であった。

(1) 尊厳と信頼と安全・安心なサービス提供

リスペクトケアあらゆる場面においても敬意を持って対応するーをスローガンに掲げ、“尊厳”“信頼”“安全”“安心”を意識したサービスの提供に努めた。安全ベルトの装着、4本柵、エレベータ、居室の施錠等、心理的、身体的拘束を一切行わないケアが提供できた。

(2) 利用者、家族ニーズの把握と対応

利用者・家族の個別的なニーズについては、利用契約時における各種アセスメントと、入居後に行われるケアプラン会議などで利用者及び家族のニーズの把握に努め、より個別的なケアプランに反映させるよう努めた。

また、施設サービスや運営・管理などに関するニーズについては、「利用者懇談会」「家族懇談会」の開催や施設内4カ所に意見箱を設置しニーズ把握に努めた。

(3) 質の高いサービスの提供と標準化

管理監督職を中心とした管理職会議において施設運営の舵を取り、サービスの水準を高く、安定させることに努めた。また、日々の申し送り等における監督者によるスーパービジョンにより、職員の気付きを促すとともに、ケアの方向性を示すことに努めた。職員個々によりサービスの質のばらつきを無くすためにも、次年度は委員会の活動をさらに展開させサービスの標準化に努めたい。

4. 事務管理体制

- (1) 施設設備等の管理については維持管理を専門業者に委託し、定期的な点検を実施し設備の不具合、瑕疵点検を行い、施設設備の維持管理に努めた。
- (2) 消耗品については、適切な在庫管理に努めるとともに、品目の見直しや購入価格の見直しを行い、コスト削減に努めた。

5. 防災対策及び施設の保全対策

(1) 防災訓練

今年度中の施設での実施には至らなかったが、川崎市健康福祉局による防災無線での伝達訓練に参加し、非常災害時の情報伝達方法について確認を行った。次年度は施設での防災訓練を行い、職員の防災意識の向上に繋げたい。

(2) 防災減災研修

委託業者による防災監視盤の取り扱いについてのレクチャーを受けた。次年度は職員への周知を図るとともに、防災、減災に向けた研修を実施したい。

(3) 備蓄品の整備

災害時に使用するヘルメット、ライトや誘導灯、災害用食品の備蓄品等の整備及び点検を行った。

(4) 地域防災協定の締結

地域防災協定の締結は消防署の仲介ではなく、施設と自治会にて締結する形となるため、次年度は近隣自治会と協議の場を設け具体的に取り組みたい。

6. リスクマネジメント

- (1) 苦情解決責任者を中心に、意見や苦情を汲み上げる体制を整えてきた。
日常的な対応 一言葉使い、態度、挨拶 等の意識や実践力が低く
リスクヘッジができていないことが課題であった1年といえる。
- (2) 事故報告書、ヒヤリハット報告書による情報の共有は図れているが、事故の分析、予防対策を講じるまでには至らなかった。次年度は委員会を中心に事故の分析を行い、事故防止に努めたい。

7. 諸規定の遵守及び検討

介護保険関係法令を遵守した運営を行った。また、慶弔休暇、有給等の休暇制度について、いずれも諸規定を遵守し適切な処理を行った。

8. 人材育成

職員個々の能力開発やキャリア形成を図るための各種研修を行ってきた結果、非常勤雇用の職員の中から常勤介護職員へ、また非常勤職員の雇用のままではあるが、就労時間の延長、業務の拡大を望む職員が増えてきおり、優秀な人材の確保という成果に繋がっている。

新採用職員には、個々のスキルに合わせた教育としては、チューター制によるOJTを実施しているが、チューターを担う職員のスキルの標準化が不十分であったことから、新採用職員の定着を阻害した要因となったと思われる。

感染症及び食中毒対策など介護福祉施設の運営基準に則った研修も定期的実施した。

意欲的に自己研鑽に励んで欲しいとの考えの下、研修参加者には参加ポイントを発行し、年間取得ポイントの多い職員を表彰、副賞を贈呈した。

<平成 30 年度 虎の穴大作戦 ～御養育プログラム～ >

日 程	内 容	講 師
4月2日(月)	「ようこそ！チーム育明会」	高橋統括施設長
	チームケア① チーム育明会の役割分担	間宮エイド統括
	チームケア② 洗濯エイドのお仕事	小島リーダー
	チームケア③ キッチンエイドのお仕事	佐藤キッチンエイド
	チームケア④ リネンエイドのお仕事	近藤リーダー
	チームケア⑤ クリーンエイドのお仕事	里吉リーダー
	ケアワーカーのお仕事・報告書の書き方	廣瀬介護係長
	社会福祉法人 育明会 法人理念	佐原理事長
	事業計画について	高橋統括施設長
	高齢者の理解 其の老	高橋統括施設長
4月3日(火)	施設行事 お花見	高橋統括施設長
	チームケア⑥ 相談係のお仕事(ケアプラン)	佐藤相談係長
	チームケア⑦ ナースのお仕事	川野課長
4月4日(水)	移乗介助の基礎	廣瀬介護係長 佐藤(カ)・山崎主任
	スネーククッションを活用したポジショニング	佐藤機能訓練指導員
	食事のあれこれ	今井管理栄養士
	口腔ケア・食事介助の基礎	廣瀬係長・今井管理栄養士 中園主任・栗原主任
	排泄介助	廣瀬係長・古谷主任
	入浴介助	廣瀬係長・山崎主任
4月5日(火)	チームケア⑦ ナースのお仕事2	川野課長
	バイタルサインチェックについて	川野課長
	就業規則について～事務課のお仕事～	奥村係長
	高齢者の理解 其の式	高橋統括施設長
	高齢者の理解 其の参	高橋統括施設長

日 程	内 容	講 師
11月1日(木)	社会福祉法人 育明会 法人理念	佐原理事長
	ケアワーカーのお仕事・報告書の書き方	山崎介護係長
	チームケア① ナースのお仕事	山崎看護副主任
	就業規則について～事務課のお仕事～	高橋事務長
11月2日(金)	チームケア② 洗濯エイドのお仕事	植田エイド
	チームケア③ クリーンエイドのお仕事	長澤エイド

11月2日(金)	チームケア④ キッチンエイドのお仕事	米田エイド統括
	チームケア⑤ 相談係のお仕事	佐藤相談係長
	高齢者の理解	高橋統括施設長
	バイタルサインチェックについて	高橋統括施設長

<平成30年度 研修開催状況>

日時	テーマ	講師	参加人数
4月18日	オムツの当て方について	外部講師	7名
4月25日	看取り研修	高橋統括施設長	10名
6月19日	感染症研修「施設感染症予防策と食中毒予防策」	高橋事務長	41名
6月29日	感染症研修「施設感染症予防策と食中毒予防策」	高橋事務長	22名
6月29日	スキルアップ研修「認知症①」	高橋統括施設長	4名
7月11日	スキルアップ研修「認知症②」	高橋統括施設長	9名
7月22日	普通救命救急講習	日本赤十字社講師	11名
8月2日	事故発生防止研修	高橋統括施設長	6名
8月22日	スキルアップ研修「社会保障」	高橋統括施設長	6名
9月5日	ケアスキル研修「移動①」	廣瀬係長・中菌主任	10名
9月13日	スキルアップ研修「排泄」	高橋統括施設長	5名
9月21日	ケアスキル研修「食事」	廣瀬係長	5名
9月27日	ケアスキル研修「移動②」	廣瀬係長・中菌主任	7名
10月19日	食べる機能と口腔管理について	飯田良平先生	15名
10月25日	スキルアップ研修「コミュニケーション」	高橋統括施設長	8名
10月27日	ケアスキル研修「オムツ交換」	ケアサービス委員会	8名
11月15日	公開講座「怖いインターネットの利便性とそのデメリット～SNSの活用とそのリスク～」(常盤台にて開催)	小川佳子弁護士	8名
11月19日	感染症研修「肝炎ウイルスの予防と対策・嘔吐物の処理方法」	高橋事務長	29名
11月26日	感染症研修「肝炎ウイルスの予防と対策・嘔吐物の処理方法」	高橋事務長	25名
11月28日	ケアスキル研修「オムツ交換」	ケアサービス委員会	4名
11月29日	スキルアップ研修「認知症③」	高橋統括施設長	5名
12月19日	褥瘡予防対策研修	高橋統括施設長	9名
3月10日	階層別リーダー研修	佐原理事長	10名

・研修実施回数 23回 延実施時間 48時間 延参加人数 264名

<平成 30 年度 研修ポイントゲッター>

順位	氏名	ポイント	順位	氏名	ポイント
1 位	西山 奈智子	30	6 位	菅井 仁美	12
2 位	中里 蘭	27	7 位	長井 真希子	10
3 位	米田 昭子	25	8 位	笹氣 恵美	8
4 位	新保 由香里	18	9 位	大金 美保	7
5 位	遠藤 千恵子	14	10 位	大西博之・鈴木和代	6
6 位	佐々木 悦子	12		川原愛・山崎俊雄・坂口葉子	

9. 利用者の権利擁護

(1) 成年後見制度の活用

ご利用者の権利を守ることを第一に考え、財産管理及び契約行為を代行する成年後見制度の活用を進めた。成年後見制度の活用の仕方や申し立てに関する相談にも応じ活用を促した。

(2) 預り金の適正な保管と管理

預り金管理規定に基づき、預貯金及び小口現金の適切な管理、出納を行い、本人及び家族に対し毎月書面にて報告した。また、銀行と施設間における管理規定を設け、ご利用者の預り金の管理を厳正に行った。

10. 地域との連携

(1) 社会資源としての地域連携

地域の子供たちや住民が気軽に足を運べ、集える施設を目標に、1番街地域交流スペースではカフェマルシェを運営し、多くの方に利用していただいた。特に西塔之越自治会の方々には、自治会各部会の会合、自治会役員会や総会、サークル活動などで活用いただいた。

そのような中で、川崎市行政からの要請にて、市長が直接市民の方々から意見を聞く「市民車座集会」の開催会場（平成 30 年 6 月 16 日開催）としてカフェマルシェを提供した。

また、百合ヶ丘地域包括支援センターからの要請にて、東百合丘地区の認知症カフェ（毎月第四金曜日）と健康体操教室（毎月第二火曜日）の会場として提供するなどした。

<マルシェ利用状況>

4月	西塔之越自治会総会 西塔之越自治会部会会合 地域住民サークル（民舞）	青空マルシェコロバ（健康体操教室） カフェマルシェ（認知症カフェ） 千寿美会（以後 月一回 定例） おやじの会（以後 月一回定例）
5月	キッズフェスタ in マルシェ 2018 西塔之越自治会役員会	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
6月	市民車座集会 「車座集会 in あさお」	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
7月	西塔之越自治会役員会 西塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
8月	西塔之越自治会こども映画会 西塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
9月	西塔之越自治会敬老食事会 西塔之越自治会役員会	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
10月	西塔之越自治会部会会合 元気サロン	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
11月	西塔之越自治会役員会 西塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
12月	西塔之越自治会もちつき大会 西塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会

1月	西塔之越自治会役員会 西塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
2月	西塔之越自治会部会会合 塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会
3月	西塔之越自治会役員会 塔之越自治会部会会合	青空マルシェコロバ カフェマルシェ 千寿美会 おやじの会

(2) キッズコーナーの利用状況

地域の子育て中のママたちが小さなお子さんを連れてカフェマルシェを利用していることや、職員の子供達が母親の仕事が終わるのをマルシェの中で待っている姿をヒントに、マルシェの一角にクッションマットを敷いて小さな子供達が安全に遊べる空間としての“キッズコーナー”を設けて以降、地域の方々や面会のご家族、職員の子供達などが利用している状況である。

<キッズコーナー利用状況> 延合計1,109名

4月	90	8月	266	12月	88
5月	73	9月	113	1月	27
6月	86	10月	61	2月	0
7月	173	11月	69	3月	63

*1～2月は近隣小学校でのインフルエンザ流行に伴い利用休止とした。

子供達は「レジデンシャルに行ってくる!」と言って家を出、学校から直接「ただいまー」と言って帰って来る・・・。

子供たちがマルシェに集い、遊び、宿題をしていたりする。

その様子をご利用者が愛おしそうに見つめていたり、笑顔で話しかけている光景は、まさに地域交流、世代間の交流そのものであり、マルシェの存在がそれを可能にし支えていると実感している。

(3) 施設見学の受け入れ

施設利用を検討して、ご本人やご家族、担当ケアマネの見学にその都度対応した。また、川崎市福祉人材バンク主催の福祉施設見学バスツアーの対象施設として受け入れを行った。今後も様々なニーズに対応した受け入れを行いたい。

1 1. 委員会活動

委員会活動については、運営基準に則った委員会からスタートした。各サービス分野別の委員会は、本格始動とは言い難い活動状況であったため、構成委員、開催日時を再考し、次年度よりリスタートを図りたい。

1 2. 行事・クラブ活動

(1) 行事实施状況

入居者の楽しみ、そして地域との交流を目的に行事を開催した。そして、喜び、楽しみを共有し、職員間の連携力の強化に繋げることを意図して企画してきた。

5月5日 【キッズフェスタ in マルシェ】

こどもの日にちなんで、地域の子供のための祭りを開催した。子供たちを実行委員“子供店長”とし、職員は子供たちをフォローする形を取った。自治会の協力によりポスターの掲示と回覧を行い大勢の子供たちが集まり大盛況であった。

5月31日 【居酒屋 “よいどころ” オープン】

居酒屋のオープンにあたり名前を公募した結果、良い処・酔い処の意から“よいどころ”に決定。常盤台のビストロマルシェで培ったノウハウを継承し、常盤台農園の新鮮野菜も使用しながら、月1回の開店。利用者の笑顔が溢れる時間となっている。

8月20日 【サマーフェスタ in マルシェ 2018】

初年度に引き続き、レジデンシャル常盤台からの全面協力と自治会や寿太鼓の協力を得て、育明会の夏の風物詩であるサマーフェスタを開催した。フラダンスショーや盆踊りなどスケールアップし、地域住民はもちろん、近所のグループホー

ムにも声を掛け、利用者、家族、地域一体となって楽しんだ。

- 9月13日 **【敬老祝賀の集い】式典の部**
ご利用者の皆様のご長寿をお祝いし、男女それぞれの最高齢者や米寿を迎えた方に理事長より記念品を贈呈させていただいた。また、施設より皆様に、ひざ掛けをプレゼント。
- 【寿司バイキング】会食の部**
今年の敬老のお祝はお寿司をご用意！たくさん召し上がられました。お寿司のソフト食も用意し、皆様にお楽しみいただけました。
- 【クラウン HIRO コメディーショー】お楽しみの部**
世界で活躍するパフォーマーである HIRO さんを招き、コメディーパフォーマンスショーを開催しました。ご利用者はじめ職員や子供たちも巻き込んだパフォーマンスに、会場は大爆笑の渦に包まれました。
- 11月1日 **【ローソン移動販売開始】**
ご利用者からの要望が高かった「買い物」の機会の確保と社会参加を目的に、ローソンと連携し移動販売を開始、以降は月2回定期的に実施している。
- 11月5日 **【秋の大運動会】**
ご利用者が3チームに分かれて競技に参加し、総合優勝を目指して競い合いました。それぞれのチームリーダーを務める職員が先導しての応援合戦も、大変盛り上がりました。
- 11月30日 **【クリスマスイルミネーション点灯式】“よいどころ”**
定期開催している居酒屋“よいどころ”の中で、クリスマスイルミネーションの点灯式を行った。イルミネーションはクリスマスまで毎夜点灯し、皆様にお楽しみいただけました。
- 12月9日 **【もちつき大会】西塔之越自治会主催**
西塔之越自治会主催のもちつき大会に協力するという形で、当施設エントランスを会場に行われた。搗き立てのお餅を、餡子餅、からみ餅にし、常盤台農園産のお新香と合わせて提供、大変喜ばれてました。

- 12月21日 **【クリスマスバイキング】**
メインにはローストビーフとローストポークとローストチキンの3種類のお肉を、デザートは数種類から選べるケーキを、好きなだけお召し上がりいただくというのが育明会流のおもてなし。ご利用者からは笑顔が溢れ、とても喜んでいただけました。
- 1月1日 **【元旦祝膳】**
百合ヶ丘のお正月は理事長の挨拶から新しい年がスタート。お屠蘇で乾杯し、お節料理のお祝膳をゆっくりとお楽しみいただきました。
- 1月6日 **【新年祝賀の集い】**
地域の民踊サークルの千寿美会の皆様による日本舞踊、民謡クラブの大塚先生と秀美会社中による民謡ショー、大森はやし会の皆様による獅子舞で、新年を祝いました。
- 2月3日 **【節分豆まき】**
今年からは鬼も百合ヶ丘オリジナルとなり、襲来した8体の鬼を、ご利用者と家族、職員が一斉に豆を撒き、邪鬼を退治しました。鬼は退散し、百合ヶ丘に春が訪れました。
- 2月9日 **【桃の節句 雛壇飾りつけ】**
雛壇の7段飾りや、かわいいお雛様を各番街に飾り、桃の節句を迎えました。飾りつけの際はご利用者も手伝って下さり、思い出話に花を咲かせながら、楽しく飾り付けました。
- 3月6日 **【ひな祭りコンサート】**
常盤台で年2回のコンサートを開催してくださっている「たんぽぽの会とフレンドハーモニー」の皆様をお迎えし、コンサートを開催。澄んだ歌声に皆様引き込まれたコンサートでした。

(2) クラブ活動実施状況

音楽療法士の玉本先生による“ミュージックピアツァ”と、秀美会会主の大塚先生による“民謡クラブ”を下記のように実施し、前年度も行っていたカラオケは“のど自慢大会”としてリニューアルし実施した。歌や音楽はどなたでも楽しめるクラブ活動として、多くの方が参加され、楽しい時間を過ごされていた。また利用者懇談会でご要望があった“書の会”を平成31年1月より開催することとなった。

クラブ活動内容	実施回数	延べ参加人数
ミュージックピアツァ	23回	739名
民謡クラブ	22回	646名
のど自慢大会	20回	577名
書の会	5回	47名

1 3. 援助サービス各論

(1) 介護係

○医療ケアと重度化対応について

- ・胃瘻、喀痰吸引、在宅酸素、インスリン、バルンカテーテル留置など、医療的ケアが必要とされる方々に対して、看護職員との連携、情報共有を図りながらケアサービスを提供することができた。
- ・褥瘡予防については看護職員と連携し、適切なポジショニングや清潔保持に向けてケアを行った。発生した場合は速やかに対策を講じ、迅速な対応を行う事で、早期の治癒、予防策の検討、実施を行う事が出来た。

○チームケア力の向上

- ・固定配置を基本的にしながらも、流動的に職員が動くことによって、全体の利用者の情報を共有するとともに、共通の認識を持ってケアに当たることが可能となった。
- ・各職種、ケアエイドを含めて「ほう・れん・そう」を大切にすることを意識してきた。一つのチームとして同じ情報を全員で共有することに努めた結果、全体でご利用者のケアを考える事ができるようになってきた。

○感染症予防について

- ・虎の穴大作戦や季節感染症対策研修で身に着けた知識をもとに、吐物処理やインフルエンザ等の対策を行った。結果、今年度はインフルエンザ、ノロウイルス共に罹患者“ゼロ”であった。
- ・感染症予防研修をはじめ、開設当初から、家族を含めた来所者にも、手洗いとうがいを促し、協力を呼び掛けてきたことで、現在では促さなくても自主的に手洗いとうがいをしてくださっている。この取り組みにより、感染症が予防できているとも言え、今後も継続して取り組みたい。

○職員の育成と定着

- ・年間を通し多くの入退職があり、育成に迫られた一年であった。育明会のケアの考え方の浸透、如いてはロイヤリティーの醸成に繋がればと努力してきたが、思うようには進まなかった。しかし、年度途中の大幅な人事異動と組織体制の強化により、徐々にではあるが、改善、安定してきたと思われる。次年度は、法人研修やスキルアップ研修等による職員育成と、組織横断的な委員会活動を通じた連携力の強化を進め、職員の育成と定着に繋がりたい。

○組織力を発揮した支援

- ・初年度に引き続き、レジデンシャル常盤台からの全面的な応援に加え、姉妹法人である都筑シニアセンターからの応援をいただき、現場の混乱の中においても入居者のケアが滞ることなく、継続して提供することができた。それを支えたのは理事長の牽引力を中心とした「チーム育明会」としての組織力の強さだと感じている。組織をあげて百合ヶ丘を支えてくださっていることに感謝するとともに、その組織の一員として誇りを持って業務に勤めたい。

(2) 看護係

○医療的ケアと対応

- ・開設当初より、医療依存度の高い利用者の受け入れを行った。受け入れにあたっては看護と介護の連携が必須であり、情報の共有、医療的な知識・技術のサポートなどを図りながら、多職種協働で対応した。
- ・昨年度 15 件であった入院件数は、今年度 37 件と大幅な増加となった。原因の一つには、もともと医療依存度の高い利用者の受け入れを行っていても挙げられると思うが、そのような利用者状況の中においても、入院までに至らせないような日々の健康管理に努めたい。

- ・高齢者に多い脱水や尿路感染を防ぐため、いつでも気軽に水分を摂ることができるよう、各番街にウォータージャグを設置した。また、嚥下状態に合わせて、水分補給用のゼリー（お茶・イオンゼリー）を用意し、水分を摂取しやすい環境を整えたが、尿路感染が原因の入院件数は昨年度よりも増えた。水分補給の環境整備に加えて、それを活かす日常のケアについて見直していきたい。

○医師や医療機関との連携

- ・協力医療機関であるたま日吉台病院から飛田医師（内科）を派遣いただき、毎週火曜日に診察、紫雲会横浜病院からは田村医師（精神科）を派遣いただき、月2回第1、3金曜日に診察を行った。また、課題となっていた看取りに対応いただける医師として、新たに都筑シニアセンタークリニックから桂医師（内科）を招聘し、医療体制を整えることができた。
- ・ご利用者の状況をみながら、適宜、ご家族と主治医との面談の場を設け、ご家族の意向の確認に努めた。主治医と直接相談することで、入院検査・治療の方向付けと対応もスムーズに行うことができた。
- ・特に、協力医療機関であるたま日吉台病院へ通院・入院については、地域連携室を窓口とした病院との連携により、スムーズに対応していただけた。
- ・精神科医師の配置により、認知症をはじめとする精神症状が悪化した場合の相談や対応もスムーズに行えるようになった。

○口腔機能の維持向上

- ・川崎市麻生区歯科医師会の協力を得て、適宜、歯科診療に繋げることができた。口腔機能の維持は全身状態を左右する重要な要素であるため、利用者の口腔機能の維持向上及び口腔衛生に努めたい。
- ・口腔機能の維持向上、嚥下機能の改善を目的に取り組んできた口腔体操については、新入職員へのレクチャーを含めて、実施に向けて再構築する必要がある。

○看取りの対応

- ・今年度後半からの桂医師の招聘により、看取り介護のニーズに対応することが可能となり、お二人のご利用者のお看取りをさせていただいた。ご家族や職員に囲まれてお二人とも穏やかな最期をお迎えになった。
- ・看取りに関する職員の意識向上や知識の向上を図るため、次年度は研修を開催し、看取りに関する知識や意識を高めるように努めていく。

○褥瘡対策について

- ・褥瘡予防対策委員会を中心に介護との連携を図り、定期的なスクリーニング（ブレードンスケール）による褥瘡発生リスクの観察と、それに基づいた褥瘡予防計画と治療計画を作成し、対応に努めてきた。

○感染症及び食中毒対策について

- ・インフルエンザやノロウイルスといった季節感染症の発症は“ゼロ”であった。流行期には地域の小学校では学級閉鎖も続出したが、ご利用者を感染症から守ることができたのは、感染症予防研修をはじめ初年度から取り組んできた感染症予防対策の成果であると考えている。

○インフルエンザワクチン予防接種

- ・11月29日と11月30日の2回に分けて、飛田医師とたま日吉台病院の協力を得て全てのご利用者に実施した。

○肺炎球菌ワクチンの接種

- ・飛田医師の協力を得て、接種を希望された5名に実施した。

<入院状況> (件)

	男性	女性	計		男性	女性	計
H30年4月	1	1	2	H30年10月	2	2	4
H30年5月	2	3	5	H30年11月	0	0	0
H30年6月	0	2	2	H30年12月	0	1	1
H30年7月	1	1	2	H31年1月	2	2	4
H30年8月	2	4	6	H31年2月	1	1	2
H30年9月	0	7	7	H31年3月	0	3	3
				30年度合計	11	27	38

<主な入院理由>

① 肺炎	10	⑥ 脳血管疾患	2
② 食欲低下	9	⑦ 骨折	2
③ 尿路感染	5	⑧ 貧血	1
④ 脱水	4	⑨ その他	2
⑤ 蜂窩織炎	3	合計	38

<入院日数>

	30年度
最長入院日数	66日
最短入院日数	3日
平均入院日数	23.0日

<入院先の医療機関>

たま日吉台病院（協力医療機関）	29	横浜総合病院	1
横浜新都市脳神経外科病院	2	麻生総合病院	1
新百合総合病院	2	井田病院	2
聖マリアンナ医科大学病院	1	合 計	38

<退所数>

年間退所者数	16名
--------	-----

内 訳	
当該施設（看取り）	2名
医療機関	11名
老人保健施設	1名
在宅	2名

<医療処置・内容と人数> 平成31年3月31日現在

グレード1	1名	褥創	1名
		浣腸・摘便	0名
グレード2	6名	膀胱留置カテーテル	2名
		喀痰吸引	2名
		インシュリン	2名
グレード3	6名	胃瘻	5名
		在宅酸素療法	1名
		点滴	0名

<医療指針におけるグレード>

◆グレード1

- ① 褥瘡処理
 - ② 浣腸、摘便
 - ③ 医師より1日2回のバイタルサインチェック（体温、脈拍、血圧、酸素飽和度）の指示
- ・施設内で日常的に医師の指示により看護師が実施可能な医療行為です。
 - ・利用者が入居時に必要となった場合も、利用の継続が可能です。

◆グレード2

- ① 導尿、膀胱留置カテーテル、腎ろう、膀胱ろう
 - ② 人工肛門（ストーマ）
 - ③ 喀痰吸引
 - ④ インスリン注射（血糖コントロールが良好なもの）
 - ⑤ 経鼻的持続陽圧呼吸法（NCPAP）
 - ⑥ 医師より1日3回のバイタルサインチェック（体温、脈拍、血圧、酸素飽和度）の指示
- ・施設での実施が可能な医療行為です。ただし、無条件ではなく、通常より医療依存度の高いケースでは、グレード3へ移行します。
 - ・入居後に必要となった場合も、病院での処理後に利用の継続が可能です。

◆グレード3

- ① 経管栄養療法（胃ろう）
 - ② 在宅酸素療法
 - ③ 脱水等に対する一時的点滴
 - ④ 利用中の事故による創傷に対する縫合処理（簡単なもの）
 - ⑤ 毎日の血糖測定とスライディング・スケールによるインスリン注射
 - ⑥ 血液透析
 - ⑦ 頻回な喀痰吸引
- ・高度な医療を必要とする為、施設内での実施は、その時点での看護師数や施設内での医療行為の総量等の影響を受ける為、条件付きで可能です。
 - ・利用者がこの医療行為が必要となった場合は、個々のケースで対応します。

◆グレード4

- ① 自己腹膜還流
 - ② 中心静脈栄養
 - ③ 悪性腫瘍患者への科学療法
 - ④ 気管切開
 - ⑤ 結核排菌者への治療
- ・高度な医療行為が必要なため、施設での実施は原則的に不可。
 - ・利用者が入居後、必要となった場合は適切な病院へ転院させ、この医療行為を必要とする限りは施設へ再入居することはできません。

(3) 相談支援係

施設の総合窓口として、ご利用者やご家族はもちろん、地域、各介護保険事業者、行政等からの問い合わせ等にワンストップで対応することを目的に各相談業務を行っている。施設の顔として前線に立って役割を果たした。

◎入退所業務

- ・入所、退所状況…年間入所者 38 名、年間退所者 16 名
- ・年間平均稼働率 64.3%
- ・退所に際しては、ご利用者の状態把握と合わせてご家族の意向を最大限尊重し、課題を一つ一つクリアしながら相談と調整を行った。

◎ケアマネジメント業務

- ・ご利用者本人とご家族を交えたケアプラン会議を実施してきた。
- ・施設サービス計画書の作成については、年間を通して計画的に作成及び更新を図るため、年間スケジュールを作成し取り組み始めたが、計画通りに作成することができなかった。次年度以降は改善したい。
- ・モニタリングについては、より次の更新に生きるモニタリングとなるよう、次年度以降に再度見直しを図りたいと考えている。

◎利用者ニーズの把握と情報開示（利用者懇談会の主催）

- ・平成 30 年 12 月 6 日（参加者 37 名）

幅広くご意見を伺うために、番街職員より事前の意見聞き取りを行った。またご利用者に主体性を持って参加いただきたいという考えから、懇談会会場ではたい焼きをお供にお茶の提供を行い、和やかな雰囲気に参加いただける環境とした。

◎家族のニーズ把握と情報開示（家族懇談会の主催）

平成 30 年 3 月 24 日（29 家族 40 名参加）

テーマ・入居者状況の説明

- ・介護保険制度改正に伴う重要事項の変更について
- ・預かり金について

◎介護保険関係申請代行業務

- ・要介護認定や各種介護保険関係の申請代行、各種手続きの補助を行った。
介護保険、医療の各種認定証はそれぞれ更新申請時期が異なるため、有効期限を把握し、必要な手続きが速やかに行われるよう努めた。

◎その他

- ・よいどころやカフェマルシェ、クラブ活動、年間行事に対応した。

<利用者状況>

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

①年齢

最高年齢	102	男性	92
		女性	102

最低年齢	61	男性	61
		女性	61

平均年齢	85.1	男性	80.7
		女性	86.7

②要介護度

平均要介護度	4.1	男性	4.4
		女性	4.0

<平成 30 年度 入所・退所状況> 上段：ユニット型 下段：従来型

	入所			退所		
	男性	女性	計	男性	女性	計
4 月	0	0	0	0	2	2
	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
6 月	0	0	0	0	1	1
	0	0	0	0	0	0
7 月	0	2	2	0	0	0
	0	0	0	0	1	1
8 月	0	1	1	0	0	0
	1	0	1	0	1	1
9 月	0	0	0	1	0	1
	3	4	7	0	1	1
10 月	0	1	1	1	0	1
	3	5	8	0	0	0
11 月	0	0	0	0	2	2
	1	2	3	0	0	0
12 月	0	1	1	0	1	1
	2	4	6	1	0	1
1 月	0	2	2	0	1	1
	0	0	0	0	0	0
2 月	0	1	1	1	2	3
	0	1	1	0	0	0
3 月	1	2	3	0	0	0
	0	1	1	0	0	0
合計	1	10	11	3	9	9
	10	17	27	1	3	4
総合計	11	27	38	4	12	16

- ・入所者数 38名（男性：11名 女性：27名）
- ・退所者数 16名（男性：4名 女性：12名）

1 4. 短期入所生活介護サービス

今年度は受け皿としての職員体制を整えることができず、稼働させることができなかった。地域の居宅介護支援事業所からは開設を望む声も聞こえてきてい

るため、次年度はなるべく早い時期に稼働させたい。

15. 平成30年度活動一覧 (H30.4.1~H31.3.31)

事業月日		内容	分類					備考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
4	2	入社式 辞令交付				○		新入職・介護職 5名
	2	新人研修「虎の穴大作戦」		○				常盤台と合同 講師 理事長・統括施設長
	15	西塔の越自治会会合					○	12名
5	5	キッズフェスタinマルシェ	○					参加者 約130名
	8	地域開放青空マルシェコロバ					○	
	13	西塔之越自治会役員会					○	参加者 8名
	21	職員健康診断	○					受診者 43名たま日吉台病院
	31	よいどころマルシェ開店	○					
6	7	専修大学企業説明会				○		
	19	感染症・食中毒予防対策研修		○				参加者41名 講師 高橋事務長
	16	川崎市市民車座集会 「車座集会inあさお」					○	市長以下参加者53名
	29	感染症・食中毒予防対策研修	○					受講者21名 講師 高橋事務長
7	6	七タマルシェ	○					
	8	西塔之越自治会役員会					○	
	11	スキルアップ研修		○				参加者8名 講師 高橋統括施設長
	22	AED救命講習会		○				自治会共催
8	3	消防立ち入り検査					○	麻生消防署 署員2名
	4	自治会子ども映画会					○	自治会主催 23名
	19	サマーフェスタinマルシェ2018	○					参加者 約250名
	22	スキルアップ研修		○				参加者 6名 講師 高橋統括施設長

事業月日		内容	分類					備考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
9	8	オレオレ詐欺講習会					○	自治会主催
	9	自治会役員会					○	参加者 24名
	13	ケアースキル(排尿)		○				参加者 6名 講師 常盤台 廣瀬介護係長
	13	敬老祝賀の集い・アトラクション大道芸	○					
	17	自治会敬老祝賀食事会	○					20名食事の提供
	20	お彼岸おはぎ作り					○	
	27	ケアースキル(移乗)	○					参加 7名 講師 常盤台 廣瀬介護係長
10	17	塔之越自治会自主防災会議					○	代表 渡辺様 参加5名
	18	よいどころマルシェ	○					参加 45名
	19	口腔嚥下研修		○				飯田先生 参加14名
	25	スキルアップ研修		○				参加者 8名 講師 高橋統括施設長
	27	麻生区保健所 感染症研修		○				山崎看護副主任参加
11	1	虎の穴大作戦		○				新入職 8名参加 講師 佐原理事長 他
	2	虎の穴大作戦		○				新入職 12名 講師 高橋統括施設長 他
	5	秋の大運動会	○					利用者、職員によるチーム対抗
	11	西塔之越自治会役員会					○	山中本部長 24名
	15	公開講座・SNSの活用とリスク	○					法人主催 講師 小川佳子弁護士
	19	食中毒・感染症予防研修会	○					参加者 24名 講師 高橋事務長
	22	川崎市福祉人材バンク主催 福祉施設見学バスツアー			○			施設見学・参加者8名
	26	食中毒・感染症予防研修会		○				参加者 21名 講師 高橋事務長
	27	西塔之越自治会おやじの会					○	山中本部長他15名

事業月日		内 容	分類					備 考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
12	8	褥瘡予防研修会		○				
	6	ご利用者のみなさまとの懇談会		○				ご利用者 27名参加
	9	西塔之越自治会主催 もちつき大会	○					自治会・利用者・職員
12	19	褥瘡予防研修会		○				
	21	クリスマスバイキング	○					理事長手作り料理
	29	平成30年仕事納め会	○					新しい年に向けて
31.1	1	元旦祝膳	○					おせち・お雑煮・理事長祝辞
	6	新年祝賀の集い	○					大森囃子会・秀美会大塚先生 千寿美会
	7	新春書初め	○					書の会
2	3	節分豆まき	○					役職者は鬼・福は内
	13	鍋週間	○					農園の野菜を鍋で楽しむ
	25	介護サービス情報公評制度訪問調査					○	
3	6	ひな祭りコンサート					○	たんぼぼの会・フレンドハーモ ニーの皆さん
	10	法人リーダー研修		○				崎陽軒本店会議室にて 講師 理事長・統括施設長
	12	塔之越自治会自主防災会議					○	参加9名
	22	彼岸・おはぎ作り	○					季節の行事

16. 各部署・委員会等からの活動報告

平成30年度 委員会・クラブ 構成委員名簿		平成30年12月1日改定									
名称	活動内容	開催月	開催日	時間	構成委員(◎:委員長、○:副委員長)					SV	
1 権利擁護委員会	身体拘束防止、人権侵害についての検証・改善への取組。	毎月	第一月	16:30～	◎鈴木副主任	先崎	○大森副主任	勝亦	権葉		施設長
2 事故発生防止委員会	事故についての検証、再発防止策の検討協議。	毎月	第一金	16:30～	◎鈴木主任	藤田	佐々木	大城NS			佐藤係長
3 感染症・食中毒予防対策委員会	感染症及び食中毒に対する意識を高めるための研修企画、実施、対応策を協議。	毎月	第二水	16:30～	木村栄養士	菅井	山崎副主任	吾妻	中里	山崎俊	事務長
4 褥瘡発生予防対策委員会	個々の症例に応じた予防、対応策を検討。意識を高めるための研修企画、実施。	毎月	第三月	16:30～	山崎副主任	木村栄養士	西山	大森副主任	大西	リネン1名	山崎係長
5 苦情対応委員会	苦情や要望への速やかな対応と、改善のための取組。	奇数月	第二木	16:30～	船迫	青名畑副主任	外池	佐藤係長	平山		施設長
6 広報委員会	広報誌の発行計画を立て、原稿・写真・資料の収集・整理、調査、編集を行う。	毎月	第三木	15:30～	鈴木主任	外池	石附	山中	廣野	諏江	施設長
7 行事委員会	季節感溢れ楽しめる行事を計画、実施する。	毎月	第二月	16:30～	斎藤副主任	阿部	大城(CW)	木村栄養士	外池	中里	清水NS
8 研修委員会	専門知識及び技術向上を目指した各種研修の企画、実施。	毎月	第三水	16:30～	青名畑副主任	浦山	西山	米田(昭)	鈴木主任	清水NS	佐藤係長
9 労働安全衛生委員会		奇数月	第四月	18:00～	事務長	佐藤係長	山崎係長	山崎副主任			施設長
10 ケアサービス委員会	食事排泄入浴介助の標準化及び質の向上を目的とした資料及びマニュアルの整備。	毎月	第二木 第四木	15:45～	福岡副主任	川原	早坂	山崎副主任	木村栄養士	米田(昭)	山崎係長
11 民謡クラブ	秀美会の大塚先生による民謡教室	毎月	第二木 第四木	14:00～	外池	山中	大森CM	西山			
12 ミュージックピアッツァ	玉本先生による音楽療法	毎月	第二火 第四火	13:45～	山中	廣野	平野				
13 マルジェのど自慢	カラオケのど自慢大会	毎月	第一水 第三水	14:00～	山中	大橋	外池				
14 よいどころマルシェ	居酒屋	毎月	不定期	16:00～	外池	大西	諏江	米田	佐藤係長		施設長
15 書の会	諏江先生による書道教室	毎月	第一水 第三水	14:00～	外池	大森	平野	佐藤係長			

事業報告書

委員会名称	権利擁護委員会		
報告書作成日	2019年4月12日	委員長	鈴木 秀雄
構成委員 スーパーバイザー	鈴木副主任、大金美保、先崎希実、椎葉 高橋施設長		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>ご利用者の身体拘束、虐待など権利の侵害行為をなくして、安心、安全、安楽な生活をしていただくようにする。</p> <p>ご利用者様へのリスペクトケアに基づく介護の実践。</p> <p><活動日>毎月の第一月曜日。</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>第一回、委員長の選出、権利擁護委員会の目的、活動内容についての説明。</p> <p>第二回、虐待の芽チェックリストに基づいたアンケートの実施準備。</p> <p>第三回、アンケートの回収、集計。考察。</p> <p>虐待の芽チェックリストの考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率について：介護職員以外は100%で、介護職員が62%と少なめ。次回は介護職員の回収率アップを目指し未提出の職員がいる場合には声掛けを行っていく。 ・アンケート内容について： <ul style="list-style-type: none"> ①職員自身では利用者に対して問題があるケア等を問う回答には自覚されている職員は5%程度、他の職員が行っているサービス提供・ケアに問題があると感じている46%いると回答。回答にずれが生じている ②利用者に対して長時間待たせているかとの設問に対して、13%の職員が待たせていると回答があった。今後見直しが必要と思われる。 <p><次年度に向けて></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、委員会の定期開催を必ずおこなえるようにする。 2、リスペクトケアの向上につながる研修の開催。 3、身体拘束、虐待につながる具体的な事例の周知 身体拘束、虐待の廃止にむけた研修の開催。 			

事業報告書

委員会名称	事故発生防止委員会		
報告書作成日	2019年 4月 11日	委員長	鈴木 秀和
構成委員 スーパーバイザー	鈴木主任、藤田 CW、佐々木 CW、大城 NS、大金相談副主任 佐藤係長		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>毎月第一金曜日に委員会メンバーで会議を行い、先月の事故発生回数を報告している。同じ事故を今後なくすために意見を出し合う。事故報告書を整理し職員に確認して頂く。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第一金曜日 16 時 30 分～</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>事故報告書の書類整理</p> <p>事故が発生してしまったら事故報告書を第一発見者が記載しその日のリーダーに提出する事になっている。上長に提出しコピーを各部署に配布し専用のファイルに挟んでいる。全員の職員に目を通して頂く為下駄版を挟んでいる。委員会メンバーも確認して頂く様に職員に呼び掛けているが下駄版にサインをしていない職員が目立ってしまっている。</p> <p>事故内容の確認、および今後防ぐための検討</p> <p>委員会で事故内容を確認し、防ぐための検討を行っている。事故内容は同じ利用者様が転倒してしまう事が多く見受けられている。リーダーより今後防ぐために内容を伝えているが、日にちが経過し再び転倒してしまう事がある。</p> <p><次年度に向けて></p> <p>事故報告書という書類は全員が知っているが事故の内容となぜ行ってしまったのか、リスクマネジメントが行われていない為今後研修委員会と連携し研修を定期的実施する必要がある。</p> <p>事故が起こったことは知っているが事故報告書に目を通していない職員がいるため確実に目を通してもらうような工夫を委員会メンバーで行う必要がある。</p> <p>事故報告書の書き方もバラバラで記入方法を理解していない職員もいるためリーダーと連携し記入方法の周知を図る必要がある。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

事業報告書

委員会名称	感染症・食中毒防止対策委員会		
報告書作成日	2019年4月15日	委員長	木村綾那
構成委員	山崎なみき、菅井仁美、吾妻美枝子、笹氣恵美、山崎俊雄		
スーパーバイザー	高橋事務長		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>目的：当施設において、入所者及び職員と、当施設を訪問する全ての人の種々の感染症の予防と対策をとる為、職員対象の各種研修を実施し、予防啓発ポスターの掲示等を行い、感染症・食中毒の予防を図ることを目的とする。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが分かりやすく実践しやすい、感染症・食中毒予防対策方法が盛り込まれた研修内容に努める。 ・流行予測される季節感染症の速やかな情報収集に努め、その予防対策方法の発信を行う。 ・施設内の衛生面向上を図り、施設内で発生しやすい感染症の予防・拡大防止策に取り組む。 <p><活動日></p> <p>毎月第2水曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>① 年2回(6月、11月)職員必修の感染症予防研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月：各種感染症の標準予防策、ノロウイルス・食中毒・はしか・小児感染症等の特徴と感染予防策の講義。ブラックライトを使った手洗い実習の実施。 <p>結果…手洗いの実習は、ライトで白く映りやすい薬液を手にすり込み、石鹸でよく洗って、一発で合格(手に白い汚れなし)したら景品贈呈という内容だった為、皆楽しみながら一生懸命取り組んでいた。研修参加者より、手洗いの実習で、普段より丁寧に手洗いを行ったが、ライトを当てると白く残っている部分があり、相当細やかな手洗いをしないと汚れが落ちないことが分かったとの意見が多く聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月：季節感染症(風疹、インフルエンザ、ノロウイルス)の特徴と予防策、インフルエンザの新薬について、肝炎ウイルスの実態と、感染予防策の講義、吐物処理の実践。 <p>結果…講義では、インフルエンザの新薬に関する紹介があり、1回の服用で効果がある反面、従来のものより高価な点が気になるとの意見が多く聞かれた。</p> <p>吐物処理の実践では、2017年度より多くの方に防護具の着脱だけでも体験してもらうべく、5、6名に体験してもらった。汚染部分に触れないよう脱ぐのに苦労している様子だったが、大まかな流れは体感してもらえたのではないかと思われる。</p>			

②吐物処理キットの内容見直し

- ・11月実施の研修における吐物処理実践を通し、より機能的な物品への見直しを図った。
- ペーパータオルからキッチンペーパーへ(後者の方が水分を吸収しやすい為)
- 靴のカバーをレジ袋からシューズカバーへ(レジ袋だと濡れた床で滑りやすい為)
- ハイター希釈液用のピッチャーを計量カップへ(ピッチャーの蓋が締まりにくく、ジョウロに注ぐ際溶液がこぼれやすい為)

③感染症・食中毒 予防・警戒ポスターの掲示

- ・2018年12月～2019年4月にかけて、風邪や食中毒、ノロウイルスの感染警戒・予防を喚起するポスターを各階、正面玄関等に掲示し、職員や施設に訪問する方々への感染防止の意識向上を図った。

④体調不良時や感染症に罹患した恐れのある際の対応をまとめた、「こんな時どうする？」の作成

- ・今まで、インフルエンザやノロウイルス等に感染した際の出勤の可否、対応方法が要約されたものがなかったことを受け、委員会で作成することとなった。
- ・掲示用と配布用で2種類作成し、掲示用に要約したものは、2019年1月～3月末まで職員更衣室ドアに掲示し、職員への意識付けを行った。 配布用に詳細に記載されているものは、いざという時に活用してもらえよう全職員に配布した。

⑤マットレスの洗浄～天日干し方法のマニュアル着手

- ・2018年8月に鹿児島島の病院で発生した、マットレス汚染による院内感染で死亡例が出たことを受け、まずマットレスの天日干し方法について具体策を練った。その後マットレスの洗浄方法から見直す必要があるとの見解になり、具体策を作成中である。

⑥感染症・食中毒予防対策マニュアル着手

- ・当施設に元々感染症対策マニュアルは存在していたが、詳細が抜けていたり、基礎知識がない方には分かりにくい内容となっていた為、施設に即した、より具体的で誰もが分かりやすいマニュアル作成に望むこととなった。2019年1月から着手し、委員会の規定や要項、マニュアルの骨子、標準予防策等について、皆で意見を出し合いながら作成に当たっている。

<次年度に向けて>

- ・次年度は、感染症・食中毒予防対策マニュアル完成を大きな目標として取り組んでいきたい。
- ・並行して、今年度達成出来なかった マットレスの洗浄～天日干し方法のマニュアル作成、ノロウイルス感染者及び食器上で嘔吐した方の食器洗浄方法についてなどの対策をまとめ、日常業務上での衛生面を向上を図り、入所者及び職員の安全確保を図る為の取り組みに力を入れていきたい。
- ・今年度は、入所者のインフルエンザ、ノロウイルスの発症を0に留めることが出来たので、次年度も発症者0を目指して取り組んでいきたい。

以上

事業報告書

委員会名称	褥瘡発生予防対策委員会		
報告書作成日	2019/6/4/12	委員長	山崎なみき
構成委員 スーパーバイザー	山崎（看護） 木村（栄養） 西山（介護） 大金（相談） 大西（介護） 山崎介護係長		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>褥創形成のハイリスク者を把握し、褥瘡予防及び褥瘡の早期治療に取り組むための協議検討を行う。</p> <p>介護、看護、栄養の側面から多角的に分析し、褥瘡予防につなげる。</p> <p><活動日></p> <p><実施内容及び結果></p> <p>① 研修会の実施</p> <p>委員会主催による研修会を 12 月に実施。</p> <p>高橋施設長により褥瘡の基礎の研修を実施した。</p> <p>② ブレーデンスケールを使用した評価を実施</p> <p>3 か月毎（3.6.9.12）に、介護職を中心に評価を実施。高リスク者を抽出。</p> <p>高リスク者及び褥瘡発生者に関し、管理栄養士と共に褥瘡治癒効果のある栄養補助食品の選定、提供方法などの相談を行い、ベッド上でのポジショニング、エアーマット使用など介護職と話し合いを行い褥瘡の発生防止、早期治癒を目指し、褥瘡発生者 1 名は、他施設より持ち込まれた褥瘡の治癒につなげた。</p> <p>③ 体位交換実施</p> <p>ベッド臥床時、ご自分で体位を変えられない方に対し実施チェック表もなく、各々職員のあいまいな時間での体位交換となっていた。確実に体位交換を行えるよう、新たにチェック表を作成し、必要な入所者看介記録と共に挟み、連絡ノートへの記載による職員の周知を行った。実施当初は、記載漏れなどみられていたが、時間の経過とともに記載することが出来ている。</p> <p>④ 褥瘡発生者への治療</p> <p>褥瘡発生してしまった入所者に対し、更なる体位変換にて除圧を徹底し主治医の診察による、治療指示、実施を継続、エアーマットの使用を行った。改善がみられない・褥瘡発生を繰り返す方に関しては、栄養補助飲料の提供を管理栄養士を交え検討し提供した。</p> <p>内、1 名は治癒につなげることが出来た。</p>			

⑤ スネーククッション作成方法

体位交換時にクッション及びスネーククッションを使用しているが、排泄などにて汚染・材料不足・作成者の不在等から十分なクッション提供ができなかった。その中でも、ある材料にて対応してくれた介護職には感謝している。

材料不足に対し、材料収集喚起のポスターを作製。皆様の協力により多くの材料が集まった。

<次年度に向けて>

・発生リスク者の抽出は、高齢者施設において発生を予測、防止するためにも3ヵ月毎の実施を介護職の協力を得ながら継続。実施月は、3月6月9月12月と前年同様。

・適宜、夜間帯などのベッド臥床時、自己体位変換を行っているかのチェックを行い、独歩にて歩行されている方でも臥床時、同一体位であることもある為先入観を持たず体位チェック表を活用し適切な体位交換を行っていく。

・現在、褥瘡発生者が1名おり、処置を継続中。主治医の診察により適切な処置を行い、傷の状態を評価し各職種と協力し改善に努める。

・スネーククッション作成につきルール作りを行い、適切な量が確保できるようにする。

各職種との話し合いのもと、依頼したことが実施できているか・高リスク者の発生予防に努めていく。

褥瘡に対し、きちんとした知識や振り返りを行い研修もしくはミニ研修を行い、基本を押さえたその人に応じたケアにつなげられるようにしていきたい。

以上

事業報告書

委員会名称	苦情対応委員会																		
報告書作成日	平成 31 年 4 月 5 日	委員長																	
構成委員 スーパーバイザー	佐藤直明、青名畑佑介、船迫幸子、平山美枝子、外池永尚 高橋統括施設長																		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間																
<p><目的及び課題></p> <p>委員会の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族、地域住民からの苦情や要望などの速やかな対応に努める <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族からの意見や苦情を施設全体で共有し改善する。 ・普段の関りや会話の中に潜在する意見や苦情を掴み取る。 ・意見や苦情を施設全体で共有できる仕組みを構築する。 ・利用者や家族が意見や苦情を表明しやすい環境を整える。 <p><活動日></p> <p>奇数月の第二木曜日 16：30～</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>委員会実施状況 全 5 回</p> <p>7 月 12 日、9 月 13 日、11 月 8 日、1 月 10 日、3 月 14 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会がキャッチした意見や苦情については、苦情受付担当者を通し苦情解決責任者へ報告、必要な処置、対応を行った。また、意見や苦情の内容に応じて該当する部署の担当者（責任者）へ申し入れ、改善が図られるように努めた。 <p>意見及び苦情の内容と対応 全 5 件</p> <table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>失禁したことを職員が大きな声で話していたので、他の人にも自分が失禁したことが聞こえたのではないかと思ひ嫌な気持ちになった。</td> </tr> <tr> <td>対応</td> <td>職員会議等を通じて事例を紹介し啓発した。</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>業務が作業的に感じる。口腔ケアがきちんとされていなかった。</td> </tr> <tr> <td>対応</td> <td>申し出者には状況を確認し説明。職員会議等を通じて啓発した。</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>命令口調で話す職員がいる。言い方を考えて欲しい。</td> </tr> <tr> <td>対応</td> <td>指摘があった職員には状況を確認。他の職員には会議等を通じて啓発した。</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>意見用紙が無く記載できなかった。</td> </tr> <tr> <td>対応</td> <td>意見用紙を設置、今後は定期的に委員が補充することを徹底した。</td> </tr> </table>				内容	失禁したことを職員が大きな声で話していたので、他の人にも自分が失禁したことが聞こえたのではないかと思ひ嫌な気持ちになった。	対応	職員会議等を通じて事例を紹介し啓発した。	内容	業務が作業的に感じる。口腔ケアがきちんとされていなかった。	対応	申し出者には状況を確認し説明。職員会議等を通じて啓発した。	内容	命令口調で話す職員がいる。言い方を考えて欲しい。	対応	指摘があった職員には状況を確認。他の職員には会議等を通じて啓発した。	内容	意見用紙が無く記載できなかった。	対応	意見用紙を設置、今後は定期的に委員が補充することを徹底した。
内容	失禁したことを職員が大きな声で話していたので、他の人にも自分が失禁したことが聞こえたのではないかと思ひ嫌な気持ちになった。																		
対応	職員会議等を通じて事例を紹介し啓発した。																		
内容	業務が作業的に感じる。口腔ケアがきちんとされていなかった。																		
対応	申し出者には状況を確認し説明。職員会議等を通じて啓発した。																		
内容	命令口調で話す職員がいる。言い方を考えて欲しい。																		
対応	指摘があった職員には状況を確認。他の職員には会議等を通じて啓発した。																		
内容	意見用紙が無く記載できなかった。																		
対応	意見用紙を設置、今後は定期的に委員が補充することを徹底した。																		

<次年度に向けて>

- ・意見や苦情をキャッチする仕組みが不十分であるため、苦情対応報告書、意見箱などの活用について、職員に再度周知を図る。
- ・職員個人の対応について指摘を受けることが多かったため、全体への周知徹底の他、各部署リーダーから個別に指導し改善に繋げていく。
- ・法人の第三者委員会について利用者及び家族にあらためて説明するとともに、第三者委員会開催の際は当委員会からも代表者が出席することとしたい。
- ・意見や苦情の内容によっては、当該委員会だけでは解決できないことも多いため、他の委員会との協働、各部署リーダーへの報告手順など、解決に向けた道筋を構築したい。

以上

事業報告書

委員会名称	広報委員会		
報告書作成日	平成 31 年 4 月 10 日	委員長	
構成委員 スーパーバイザー	鈴木秀和、石附彩、山中辰、廣野園子、諏江信雄、大城栄津子、外池永尚 高橋統括施設長		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を通して、利用者や家族、地域の方々に施設への理解と協力を図る。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設としての広報活動方法（情報の開示方法）を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ（スタッフブログ）の有効活用と更新。 ・広報誌（百合ヶ丘便り）の発行 <p><活動日></p> <p>毎月第三木曜日 15：30～</p> <p><実施内容及び結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの情報更新は年間で 19 回行った。 ・スタッフブログの更新は年間で 8 回行った。 ・百合ヶ丘便りをホームページ上で公開する形を取り、百合ヶ丘便り専用のバナーをホームページ上に新たに設けた。百合ヶ丘便りを年間で 5 回発行した。 <p><次年度に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログ、百合ヶ丘便り共に計画的な更新や発行をする。そのための仕組みを構築する。 ・施設の広報活動の目的、狙いを理解し、年間計画を立案して取り組んでいく。 ・百合ヶ丘便りの紙ベースでの発行やご家族への配布を検討する。 ・ブログと百合ヶ丘便りの取り扱いを分ける。 ・委員や職員を巻き込んで取り組んでいく。 <p style="text-align: right;">以上</p>			

百合ヶ丘便り

発行 広報委員会

発行日 2018 年 8 月 13 日

6 月 16 日 レジデンシャル百合ヶ丘を会場に区民車座集会在開催されました！！

車座集会是、福田市長自ら地域に出向き、地域の課題解決に向けて住民と意見交換を行う場として、
今回が 36 回目の開催！ 車座集会的様子は、川崎市のホームページでご覧になれます。
ちなみに福田市長は東百合ヶ丘地区のご出身とのことで、地元での集会となりました。



ファシリテータは福田川崎市長！！



熱気ある会場、意見交換が進みます



閉会后、記念写真の撮影！…福田市長、多田麻生区長とともに。

これからも、レジデンシャル百合ヶ丘は地域と共に歩みます！！

市長、区長、川崎市役所、麻生区役所、百合ヶ丘地域包括、地域の皆様、ありがとうございました！

百合ヶ丘便り

発行 広報委員会

発行日 2018 年 8 月 31 日

7 月 22 日

西塔之越自治会主催の救命講習会が当施設マルシェにて行われました！

施設職員も地域の皆様と一緒に参加させていただきました。



日本赤十字社の先生による講義に参加者は真剣に耳を傾けています。



胸骨圧迫の実技演習。1.2.3.4...30 回



当施設の 1 番街には A E D (自動体外式除細動器) が備えてあります。(施設玄関を入り真直ぐ突き当たりに備えています。)

万が一の時にも冷静に対処できるよう、全職員が定期的受講できるようにしていきます。西塔之越自治会の皆様、ありがとうございました！



百合ヶ丘便り

発行 広報委員会

発行日 2018 年 9 月 5 日

居酒屋 “よいどころマルシェ” 祝開店

ご入居の皆様からの強いご要望があり、居酒屋を開店することになりました

お店の名前は・・・“よいどころマルシェ”

ご家族の皆様も、ご一緒にいかがですか？



おつまみは職員の手作り料理、メニューはご入居者のご要望をお聞きしながら・・・
常盤台農園産の旬の食材も登場します。

よいどころ当日の午後、館内には美味しそうな匂いが漂います。



「とりあえずビール！」「私はジュース！」

揃ったところで「かんぱーい！」

別ユニットの方と交流できるのも楽しみの一つです。



もう一つのお楽しみ、カラオケタイム！

「若い時はよく歌ったよ。」と、思い出話にも花が咲き、

最後は故郷－ふるさと－の大合唱でおひらきに・・・

「またのお越しをお待ちしております。」

よいどころマルシェの開催日は、館内のポスターでご確認ください。

次回の開催をお楽しみにー！

百合ヶ丘便り

発行 広報委員会

発行日 2018 年 9 月 26 日

斎明会の夏祭り サマーフェスタ in Marche 2018

西塔之越自治会やボランティアの皆様のご協力の下、
賑やかに!華やかに!開催いたしました!



天候にも恵まれて...



各種屋台も準備完了!



職員皆で最終打ち合わせ。
細かな確認も怠りません。



理事長からの激励に士気も高まります。
愛犬ゴロウ君からも激励だワン!!



ドンドンドン!
寿太鼓の皆様による
オープニングパフォーマンス



ご利用者代表による開会宣言
「みんなで楽しみましょう!」



お目当ての屋台に向かう皆様
あっという間に屋台には行列が...



「とりあえずビール！」「じゃがバターはどこ！？」

パスカード片手に屋台巡り！
浴衣姿も素敵ですね！



宴もたけなわ セレモニーの開幕です！
プア・ホ・アロハフラサークルの皆様による
フラダンスショーに目は釘付け！「Aloha！」



MihiraさんとOgawaさんによる民謡ショー！
そして、盆踊り！踊りの輪が
二重三重に広がります。



グランドフィナーレは花火！ 音楽に合わせて、次々と点火
花火師は当施設の
イケメンワーカー4人衆！



最後は子供たち
30人による手持ち花火！

西塔之越自治会の皆様をはじめ、多くの方々にご協力をいただき、
感謝申し上げます。ありがとうございました！また来年！

百合ヶ丘便り

発行 広報委員会
発行日 2018年11月20日

敬老祝賀の集い

ご入居の皆様のご長寿をお祝い申し上げます。

9月13日に、“敬老祝賀の集い”を行いました。
第一部は「式典」
理事長と施設長からお祝いのお言葉をお伝えしました。

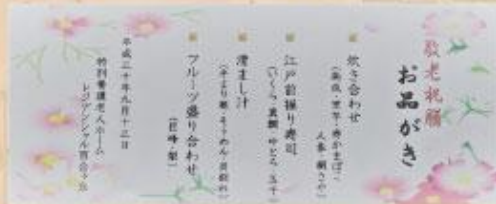


当施設最高齢は101歳！大谷様
佐原理事長より、記念品を贈らせていただきました。
そして、皆様には施設から
手作りのメッセージカードと膝掛をお贈りしました。
これからの季節、ご活用いただけると幸いです。



第2部「食事会」

今年の食事会のメインはお寿司! 中トロ!! 赤身!! 漬けマグロ!! の
マグロ尽くして、お楽しみいただきました。



こちらはお寿司のソフト食!
固形物をお召し上がりになれない方にも、
舌でつぶせる柔らかさに加工したソフト食を
お召し上がりいただきました。もちろん、
おかわりのトロもご用意!



お寿司をつまみにビールもご提供!

ほんのり頬を染められたご入居者様もいらっしゃいました。

「もう食べられないわ!お腹いっぱい!」と、皆様ご満足いただいたようです。

第3部 クラウンヒロ コメディパフォーマンスショー



観覧
無料

第三部はお楽しみ会!

“クラウンHIRO”によるコメディパフォーマンスショー!



さてさて、お招きした“クラウンHIRO”さんは、
世界で活躍するパフォーマーで、
今回ご縁があってお招きする事が出来ました。
遊びに来ていた近所のお子様や職員も巻き込んでの
パフォーマンスに、ご入居者様も終始大爆笑!

楽しく締めくくった、今年の“敬老祝賀の集い”でした。
この度は、敬老の日、おめでとうございます!!

次年度へ続く・・・

事業報告書

委員会名称	行事委員会		
報告書作成日	平成 31 年 4 月 27 日	委員長	斎藤 廉
構成委員	外池永尚（法人本部付） 斎藤 廉（介護係） 木村綾那（管理栄養士） 清水幸子（看護係） 中里 蘭（エイド係）		
スーパーバイザー	高橋施設長		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日
			12 ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>利用者様のあらゆるニーズに応えるべく、四季にあった行事を開催し、季節を感じながら日常生活を送って頂くとともに、地域社会や他者とのコミュニケーションの場を設け、活動活性化・QOLの向上を目指した取り組みとして、行事の企画・開催をする。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第二月曜日</p> <p><実施内容及び結果></p>			
実施日/行事名/参加人数	内容		
4 月 15 日 端午の節句	各番街の共有スペースに五月人形を設置した。		
5 月 5 日 キッズフェスタ	こどもの日にちなんで、地域の子供たちが集い、楽しめるキッズフェスタを開催した。多くの地域住民の方が参加され地域密着型のイベントで、利用者様もコミュニケーションをとれる場となり一緒に楽しんで頂いた。		
7 月 6 日 七夕マルシェ 31 名	各番街、利用者様と一緒に笹を飾り、願い事を書いていただいた。カフェマルシェにてお琴の演奏を聴きながら七夕の雰囲気を楽しんで頂いた。		
8 月 19 日 サマーフェスタ in Marche 2018	常盤台のバックアップも含め、全職員が一丸となって夏のお祭りを開催した。利用者様、ご家族、多くの地域住民の方が参加され、楽しい時間を共有した。またボランティアの方のご協力もありフラダンスショーや花火も子供たちと一緒にいった。		
9 月 13 日 敬老祝賀の集い	敬老の日にあたり、第一部の式典では利用者様、ご家族、職員と共に長寿、百寿のお祝いを行った。第二部の会食では寿司バイキングを行った。その際、利用者様全員に敬老メッセージカードとブランケットの記念品をプレゼントした。第三部の演芸ではクラウン・ヒロさんにお越しいただきコメディパーフォーマンスで盛り上がり、敬老の日のお祝いをした。		

11月5日 秋の大運動会 45名	の運動会を開催。季節を感じていただきリハビリを兼ねた運動とゲームで楽しんでいただいた。番街対抗で行い、車椅子上でも行える競技を考案し、職員も応援協議で利用者様と一丸となり楽しんで行った。
12月9日 お餅つき 67名	地域主催のお餅つきをエントランスにて開始し、利用者様、職員も一緒に参加させていただいた。お餅つきを行い、マルシェにてお餅を味わって頂いた。
12月21日 クリスマスバイキング 67名	バイキング形式の食事を用意し、季節を感じながら食事を楽しんでいただいた。職員は利用者様にクリスマスメッセージカードを作成しお渡しした。また、利用者様と一緒にクリスマスツリーや各フロアに飾り付けを行った。
1月6日 新年祝賀の集い 35名	各ユニット、共有スペースに正月飾りを行い、新年を迎えた。新年祝賀の集いでは年の初めを祝い、千寿美会による舞踊、秀美会による民謡ショー、大森はやし会による獅子舞いの演目で利用者様と一緒に楽しみ、一年の無病息災を願った。
2月3日 節分豆まき	利用者様と職員で豆まきを行い、邪気を払って一年の無病息災を願った。鬼役の職員は各番街をまわり、年男年女の職員と利用者様を中心に豆まきを行った。利用者様で年男年女のご家族も参加して頂いた。
3月6日 ひなまつりコンサート	各番街の共有スペースにひな人形を飾った。 ひなまつりコンサートではたんぽぽの会とフレンドハーモニーの皆様によるコンサートを楽しんで頂いた。

〈30年度総括〉

- ・年間を通して、様々な行事を開催し利用者様、職員ともに四季を感じながら生活を送りコミュニケーションを図ることで、喜びと楽しさを感じていただく事ができた。またそれが利用者様にとっても日常生活の刺激となり、当施設の行事が楽しみの一つとなっていた。
- ・前年度までは常盤台の全面的なバックアップをして頂いていたが、徐々に百合ヶ丘でも利用者様のニーズや地域性も踏まえた百合ヶ丘らしい行事への取り組みを行うことができた。しかし行事の企画、運営、開催をしていく中で、事前の準備や職員同士の連携が大切であるという事を体感して学び次への課題が生まれ、初めての取り組みに意欲的に挑戦し行事委員としての自覚をもって行事活動が行えた。

〈次年度に向けて〉

- ・行事の開催にあたり、それぞれが役割を持ちお互いを理解し、共有することで施設全体でより良い行事開催が出来るよう努めていく。
- ・百合ヶ丘では地域性を活用し、地域密着型の施設運営を行っていく。

以上

事業報告書

委員会名称	研修委員会		
報告書作成日	2019年 4月 11日	委員長	鈴木 秀和
構成委員 スーパーバイザー	鈴木主任、西山 CW 浦山 CW 米田キッチンエイド 清水 NS 佐藤係長		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><目的及び課題> 施設全体に必要な研修を企画、運営する。</p> <p><活動日> 毎月第三水曜日 16 時 30 分～</p> <p><実施内容及び結果> 職員にアンケート様子を配布し行って頂きたい研修を記載して頂き回収。 4 月からアンケートを回収したが、以降の話し合いが進まずにそのままの状態となってしまう。職員の参加人数も少なく研修を中止する事もあった。 11 月に新人職員、研修に参加していない職員向けに虎の穴大作戦を実施。 理事長、統括施設長をはじめ講義をして頂き、法人理念（思いを言葉に、言葉を行動に、行動を形に、形を未来に）を伝えている。その後介護係、相談係、事務課、エイドそれぞれの部署がどのような業務をしているか抗議して頂いている。</p> <p><次年度に向けて> アンケートを行ったのにも関わらず研修がほとんど行われていないという現状があり、次年度は年間スケジュールを作成し必ず実施していく必要がある。アンケート結果から時間が経過している為もう一度アンケートを行う必要がある。参加人数が少ない現状は今後委員会でどうすれば参加して頂くか話し合う必要がある。（同じ研修を数回行う）事故、権利擁護委員会等他の委員会と連携し企画、運営していく必要がある。個別援助計画書を CW が作成しているが、作成方法をわからない職員がいるため研修を行う必要がある。次年度は研修を実施、参加人数の増員をしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

事業報告書

委員会名称	ケアサービス委員会		
報告書作成日	2019年4月10日	委員長	福岡 美穂 (介護課・副主任)
構成委員	山崎諭憲、川原愛、早坂道子、山崎なみき、米田昭子、木村綾那		
スーパーバイザー	SV 高橋施設長		
報告期間	2018年4月1日	～	2019年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>毎月第2・4木曜日に委員会メンバーで会議を実施。 食事・排泄・入浴と大きく3項目に分け、各項目のマニュアル作成を行う等『ケアの標準化』を目標とし活動する。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第2・4木曜日 16:00～</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>【排泄】</p> <p>①マニュアル作成 排泄介助の意義・留意点・手順をマニュアル化し、リリース。</p> <p>②陰部洗浄の実施 尿路感染に罹患した利用者がいたことから、尿路感染者へのケアとその予防として期間を設けて13時の排泄介助時にトイレ誘導者はウォシュレット、オムツ対応者はシャワーボトル（空のペットボトルを再利用した手作りのもの）を使用し一日一回陰部洗浄を行い、陰部の保清を行ってきた。 尿路感染に関するデータ集計の結果、取組以降は尿路感染者数が激減したことが読み取れた。 感染者数が落ち着いてきたことを機に陰部洗浄を終了とする。</p> <p>③排泄使用物品表の作成 CWより各ユニットにご利用者が使用している排泄物品の一覧表がほしいとの声があり、各ユニットの利用者の昼夜の排泄使用物品を一覧化し、3番街は各サテライトクリーンルーム、2番街はクリーンルームに掲示。一覧表を確認することで新人職員や応援職員が円滑に排泄介助に入ることが出来るようになった。</p>			

【入浴】

①マニュアル作成

入浴介助の意義・留意点・手順をマニュアル化し、リリース。

②F浴の移乗方法周知・徹底

姉妹施設レジデンシャル常盤台からの応援職員より F 浴出浴後の利用者移乗方法に課題があると助言を受け、バスタオルを使用し、ベッドとストレッチャーを平行に位置づけ、2名介助により、バスタオルごと移乗を行う介助方法に変更。

CW への周知・指導は介護係長・介護主任・介護副主任・常盤台応援職員に協力要請し実施。現在は百合ヶ丘の介護職員が新人職員へ指導できるまでに定着している。

③使用物品の保管方法

毎月一回ケアエイド職員により各浴室の清掃・物品補充を実施。

それ以外にも入浴介助終了後に中介助担当スタッフが使用物品の補充を行い、各浴室の環境整備を併せて行うよう呼びかけている。

現状、一度に入浴介助を行う対象者数が多く、介助後の環境整備まで行き届いていない。

また環境整備に関するスタッフの意識も薄い傾向にあるため意識づけを行い円滑に入浴介助が行なえるようにする。

④水虫予防（カテキン消毒）

入浴後に、ご利用者の両下肢にカテキンをかけ湯をすることで水虫予防を行っている。

上記は統括施設長からの SV でもあり、これを行う事で姉妹施設レジデンシャル常盤台は水虫による皮膚トラブルが激減したとのこと。その説明と併せて職員へ周知し現在では、中介助者が入浴前に各ユニットより茶殻を回収し出浴時に対応し、徹底されつつある。

⑤保湿

入浴後、ご利用者の全身にニベアクリームを塗布し保湿を行っている。

クリームの使用方法等をポスターにし掲示・呼びかけを行う事で職員に周知。

ニベアクリームは看護係管理としている。

⑥季節湯の実施

5月にしょうぶ湯、12月に柚子湯を実施。事前にポスターにより告知し季節湯を通してご利用者に季節を感じて頂く。

【食事】

①マニュアル作成

食事介助の意義・留意点・手順をマニュアル化し、リリース。

②鍋の日の実施

1月に常盤台農園で収穫された無農薬の新鮮な季節野菜を使用し、各ユニット・フロアで鍋を囲むことで季節を感じて頂く。

各々のご利用者が以前、家庭で鍋を囲んで食事をしたことを施設で実現することで改めて『食の豊かさ』を知ることができた。

【mini 研修】

①オムツ交換をテーマに『リスペクトケア』『気遣い・心遣い』を学ぶ。

委員会メンバーが講師となり、参加者一人ひとりに介護者役・利用者役を体感してもらう。居室を訪室し、オムツ交換を実施、退室するまでの一連の流れを実践・ご利用者の気持ちになって考えてもらうことで自身のケアを振り返ることを目的とする。

また研修の最後に委員が参加者に不適切な介助方法を行い、介助を受ける側が弱い立場にならないよう専門職としての自覚を持ちケアを行っていくよう呼びかけを実施。

参加者より『自身の介助方法を振り返るきっかけになった』『不適切な介助を受けた時に声かけの心なさに傷ついた。体感してハッとした』『勉強になった』等の意見・感想がよせられた。

来年度はケアの基本(マニュアル)を浸透させる手段として mini 研修を行う事を予定している。

<次年度に向けて>

今年度、マニュアル作成を行いケアの標準化を可視化する事ができたため、次年度は可視化されたものが浸透し、マニュアルに沿った mini 研修を行い職員一人ひとりが意識的にケアを行えるようになることを目指していく。

また、ケアの根本を共に学ぶ過程では硬くなりすぎず楽しく学べる環境・姿勢、また自身が体験・体感する事で興味・関心を持てるよう意識して取り組んでいく。

以上

事業報告書

クラブ名称	民謡クラブ		
報告書作成日	2019年4月10日	主担当	山中 辰
担当職員	外池永尚、山中辰、大金美保、西山奈智子		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間

<講師>

秀美会会主 大塚千代美先生

尺八奏者 飯田俊孝様

<定例活動日>

毎月第2木曜日・第4月曜日 14:00～15:00

<活動実績（日時：参加人数：内容等）>

民謡クラブ開催日には、早くから開催場所で待機しているご利用者がいるほど、大塚先生が来るのを楽しみにされており、先生のご指導の下、尺八、三味線、太鼓の生伴奏で各地の民謡を歌っている。民謡クラブは、心身の状態にとらわれずに、どなたでも参加ができるクラブ活動であり、毎回多くのご利用者が参加されている。

(開始からの流れ)

13:45～誘導開始 14:00～ 民謡クラブ開始 15:00～ 終了・誘導・反省会

平成30年度の活動実績は以下のとおり。

実施月	日付	参加人数	実施月	日付	参加人数
4月	12日	27名	10月	11日	29名
	25日	28名		22日	27名
5月	9日	25名	11月	8日	31名
	28日	29名		26日	35名
6月	14日	28名	12月	13日	31名
	25日	26名		18日	33名
7月	12日	29名	1月	新年祝賀	---
	23日	28名		29日	30名
8月	9日	30名	2月	14日	32名
	サマーフェスタ	---		27日	26名
9月	12日	29名	3月	14日	34名
	25日	25名		29日	34名

計22回、646名が参加した。

- ・ご利用者の誘導のボランティアとして、渡辺様と栗谷川様のご協力くださっており、多くのご利用者様が速やかに安全に移動できている。ご協力に感謝。

<次年度に向けて>

- ・ご利用者の声で毎回同じ曲を唄っているという方も増えてきているので新しい民謡曲を追加していけるようにしてご利用者に飽きがないように曲目を増やしていく。

以上

事業報告書

クラブ名称	ミュージックピアッツァ		
報告書作成日	2019年4月14日	主担当	山中 辰
担当職員	山中辰、廣野園子、外池永尚		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間

<定例活動日>

毎月第2火曜日・第4火曜日 13:45～14:30

<講師>

玉本博恵先生（リリムジカ所属）

<活動実績（日時：参加人数：内容等）>

ミュージックピアッツァは、講師に音楽療法士の玉本先生をお招きし、毎月2回の音楽療法“ミュージックピアッツァ”を行っている。

歌の選曲は、季節、流行、ご利用者からのリクエストなどを取り入れ、導入、体を動かす楽曲、楽器を使う楽曲、終わりの曲といったプログラムと、プログラムに基づいた、歌手の顔写真やレコードのジャケット写真など、歌に関係する写真や絵も先生がご用意下さっている。開催中はそれらを大型スクリーンに投影し、歌を回想できるようにしている。

開催する日は、開始前から待機しているご利用者もあり、皆様とても楽しみにされている。

また、川崎市音楽療法推進事業にも取り組んでおり、1年を通して数名のご利用者を対象に取組の評価を記録し、年度末に報告書を作成して川崎市に提出した。

（開始からの流れ）

13:30頃 誘導開始 13:45 ミュージックピアッツァ開始 14:30 終了・振り返りと評価

<次年度に向けて>

年度途中で新規入所されたご利用者もいるため、評価対象とすることをご利用者を再考し次年度も取り組んでいきたい。

先生とご相談し、簡単にできる運動や遊び心のある曲の選び方、次のリクエスト曲等、もっと取り入れていければと思う。

平成 30 年度の活動実績は以下のとおり。

月	日付	参加人数	実施月	日付	参加人数
4 月	10 日	25 名	10 月	9 日	34 名
	24 日	29 名		23 日	31 名
5 月	8 日	30 名	11 月	13 日	38 名
	22 日	32 名		27 日	39 名
6 月	12 日	30 名	12 月	11 日	35 名
	26 日	25 名		25 日	35 名
7 月	10 日	40 名	1 月	8 日	32 名
	24 日	28 名		22 日	32 名
8 月	7 日	27 名	2 月	12 日	32 名
		26 日		33 名	
9 月	11 日	27 名	3 月	12 日	35 名
	27 日	26 名		26 日	44 名

計 23 回開催、739 名参加

以上

事業報告書

クラブ名称	のど自慢大会		
報告書作成日	2019年4月11日	主担当	山中 辰
担当職員	山中辰、外池永尚、大橋紀穂		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><定例活動日> 毎月第1水曜日・第3水曜日 14:00～15:00</p> <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）> のど自慢大会はカラオケ機器を使い得点モードを使用してご利用者同士で得点を競って最後に優勝、準優勝を決めてトロフィーを授与する形になっている。 また、個々に歌うのが恥ずかしい方などは合唱曲など皆で歌えるものを取り入れ参加している。年末には1年の締め括りとしてグランドチャンピオン大会を開催。</p> <p>のど自慢大会開催の時期が近づくとご利用者があらかじめ何を歌うか決めている事もある。練習の唄声がフロアから聞こえる事もあり、のど自慢大会への参加を楽しみにしているご利用者が多い。</p> <p>開催日の午前中、担当が各番街を訪ねて、大会にエントリーするご利用者を募り、歌う曲名を確認することで、会の進行がスムーズになるように工夫している。 地域の渡辺様と栗谷川様がボランティアとしてご協力くださっており、ご利用者の誘導など会の進行を補助してくださっている。ご協力に感謝。</p> <p>（開始からの流れ） 13:45頃 誘導開始 14:00 のど自慢大会開催 14:55 結果発表&トロフィー授与</p> <p><次年度に向けて> エントリーするご利用者が固定されてきているので、新たにエントリーしてくださるご利用者を増やしていきたい。そのためにも、自らの意思表示が少ない方でも、普段の関りの中から好きな歌や得意な歌を探るようにし、参加に繋げていきたい。 また、採点の結果、得点が同点となり、得点だけでは順位が決定できないこともあるため、順位の決定についてはご利用者にも明確にご説明できるようにしていく。 エントリーするご利用者数も徐々に増え、1時間の開催時間だけでは間に合わないことも想定されるため、運営方法を考える必要がある。</p>			

平成 30 年度の活動実績は以下のとおり。

実施月	日付	参加人数	優勝者	準優勝者
4 月	4 日	25 名	植松様	立石廣美様
5 月	2 日	23 名	立石廣美様	大本様
	16 日	26 名	大本様	植松様
6 月	6 日	24 名	大本様	吉澤様
	20 日	29 名	植松様	大本様
7 月	4 日	21 名	吉澤様	大本様
8 月	15 日	30 名	神部様	吉澤様
9 月	5 日	26 名	神部様	吉澤様
	19 日	25 名	宮澤様	大本様
10 月	3 日	31 名	植松様	吉澤様
	17 日	24 名	宮澤様	神部様
11 月	21 日	33 名	八木沼様	宮澤様
12 月	5 日	36 名	神部様	植松様
	21 日	31 名	宮澤様	大本様
1 月	2 日	31 名	芝山様	宮澤様
	16 日	33 名	吉澤様	宮澤様
2 月	6 日	34 名	神部様	西村捷司様
	20 日	33 名	木村様	神部様
3 月	8 日	29 名	吉澤様	植松様
	21 日	33 名	西村捷司様	宮澤様

計 20 回開催、577 名参加

以上

事業報告書

クラブ名称	よいどころマルシェ																													
報告書作成日	2019年4月18日	主担当	木村 綾那																											
担当職員	外池永尚、佐藤直明、諏江信雄、米田昭子、大西博之 廣瀬千鶴、相談支援係、事務課																													
スーパーバイザー	高橋統括施設長																													
報告期間	2018年4月1日	～	2019年3月31日																											
			12ヶ月間																											
<p><活動日></p> <p>毎月1回程度 16:00～17:30</p> <p><活動実績(日時:参加人数:内容等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・常盤台農園の旬の野菜を使いながら、美味しいおつまみとお酒、ジュースを提供し、後半はカラオケをご利用者に楽しんで頂いている。 ・普段食べることのできないものや、家庭的な料理を提供し、食欲が低下した方でも食をそそるような料理の提供に努めている。 ・ご利用者の食形態に合わせ、食べやすいよう臨機応変に対応し、提供している。 <p>*今年度の活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> <th>メニュー等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月31日</td> <td>29名</td> <td>手まり寿司、大根の煮物、大根と帆立のサラダ</td> </tr> <tr> <td>6月28日</td> <td>19名</td> <td>肉じゃが、なすの揚げ浸し</td> </tr> <tr> <td>7月30日</td> <td>27名</td> <td>冷奴だしがけ、磯辺揚げ、もろきゅう</td> </tr> <tr> <td>10月18日</td> <td>31名</td> <td>スタミナ焼き、梨とブロッコリーのサラダ</td> </tr> <tr> <td>11月30日</td> <td>42名</td> <td>肉じゃが、ほうれん草のごま和え、柿の白和え</td> </tr> <tr> <td>1月23日</td> <td>28名</td> <td>おでん、白菜のお浸し</td> </tr> <tr> <td>2月22日</td> <td>31名</td> <td>メンチカツ&コロケ、大根と鶏肉の煮物</td> </tr> <tr> <td>3月27日</td> <td>29名</td> <td>寿司3種盛り(お吸い物付)、切干大根の煮物</td> </tr> </tbody> </table> <p>計8回、延236名が参加された。 1回来店者数:平均29.5名</p> <p><次年度に向けて></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施前に飲み物、乾き物等の在庫確認を行う。また、鍋や角皿、マルシェ用の汁椀等、必要な調理器具や食器を揃えて行きたい。 2. ご利用者に普段と違った雰囲気味わって頂けるよう、料理の盛り付け方や、会場の雰囲気作りに気を付ける。 3. 季節感のある食材の使用を心がけ、ご利用者からのリクエストもメニューに取り入れる。 4. カラオケの時間も、歌う方、聞く方どちらの方も楽しめるよう、職員で協力して工夫して行きたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>				実施日	参加人数	メニュー等	5月31日	29名	手まり寿司、大根の煮物、大根と帆立のサラダ	6月28日	19名	肉じゃが、なすの揚げ浸し	7月30日	27名	冷奴だしがけ、磯辺揚げ、もろきゅう	10月18日	31名	スタミナ焼き、梨とブロッコリーのサラダ	11月30日	42名	肉じゃが、ほうれん草のごま和え、柿の白和え	1月23日	28名	おでん、白菜のお浸し	2月22日	31名	メンチカツ&コロケ、大根と鶏肉の煮物	3月27日	29名	寿司3種盛り(お吸い物付)、切干大根の煮物
実施日	参加人数	メニュー等																												
5月31日	29名	手まり寿司、大根の煮物、大根と帆立のサラダ																												
6月28日	19名	肉じゃが、なすの揚げ浸し																												
7月30日	27名	冷奴だしがけ、磯辺揚げ、もろきゅう																												
10月18日	31名	スタミナ焼き、梨とブロッコリーのサラダ																												
11月30日	42名	肉じゃが、ほうれん草のごま和え、柿の白和え																												
1月23日	28名	おでん、白菜のお浸し																												
2月22日	31名	メンチカツ&コロケ、大根と鶏肉の煮物																												
3月27日	29名	寿司3種盛り(お吸い物付)、切干大根の煮物																												

事業報告書

クラブ名称	書の会																		
報告書作成日	2019年4月15日	主担当	佐藤 直明																
担当職員	大金美保、外池永尚、佐藤直明																		
報告期間	2019年1月1日	～	2019年3月31日 3ヶ月間																
<p><講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・諏江 信雄先生（職員） <p><定例活動日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一・三月曜日 14：00～15：00 <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年12月開催の利用者の皆様との懇談会意見より、「書道のクラブを開催して欲しい」との意見を頂戴し、今年度新たな取り組みとして、2019年1月7日（月）～師範免状のある諏江先生（職員）へ講師を依頼し、上記日時で開催をする事となった。 ・道具消耗品購入代として参加費¥250円／回徴収させて頂く。 ・今年度の活動実績は以下の通りとなった。 <table border="1" data-bbox="341 1205 1161 1550"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>実施日付</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1月</td> <td>7日</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>21日</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>4日</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3月</td> <td>4日</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>18日</td> <td>9名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・計5回 延べ41名に参加頂いた。 ・「十」の字を書き始めに練習し、止め・跳ね・払いの練習し筆ならしを行い、その後に先生が書かれたお手本（毎回3種程度）の中より自身で選んで頂き書かれている。 ・書かれた作品より先生が1枚選び、「朱」でコメントを書かれ、掲示板にて作品展示をしている。御家族やご来館の皆さまへもとても好評である。 				実施月	実施日付	参加人数	1月	7日	6名	21日	9名	2月	4日	10名	3月	4日	7名	18日	9名
実施月	実施日付	参加人数																	
1月	7日	6名																	
	21日	9名																	
2月	4日	10名																	
3月	4日	7名																	
	18日	9名																	

・会の流れ

- 13：20～ 会場設営・お手本の準備
- 13：45～ 開会の放送・誘導開始
- 14：00～ 書の会開会
(会の途中で、半紙・お手本交換・墨汁補充・保安を行う)
- 15：00～ 書の会閉会・番街へ誘導・片づけ・講師添削
掲示板へ展示・前回掲示物のファイリング・クラブ活動日誌への記録。

<次年度に向けて>

- ・2019年1月より始まったクラブ活動となる為、引き続き周知を行いご利用者様へ実のあるクラブ活動となるよう心掛けていく。
- ・毎回、添削書とは別に作品を先生が選定を行っている為、11月文化週間には額等に入れ展示を行うようにしていく。
- ・お手本ファイルの整理・書の会用棚の整理整頓を行う。
- ・出納簿の確認・管理を確実にを行う。
- ・誘導等の協力に関しては番街職員へも協力して行っていく。
- ・参加状況に応じて、道具の追加購入も含め検討していく。

以 上

事業報告書

部署名称	介護係 2番街		
報告書作成日	2019年4月8日	責任者	山崎 諭憲
所属職員	介護勤務表参照		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の個別援助計画書に沿った個別援助サービスを行う。 ・ご利用者の日常生活をアセスメント、評価し個別援助計画書の見直し、作成を行う。 ・ご利用者の生活必要物品の補充、管理、環境整備を行う。 ・チューター制度による新入職員への指導、育成の実施。 <p><年度当初の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、認知症への理解、専門知識、介護技術等のケアスキルの標準化を図る。 2、ご利用者の求めるニーズ、必要なケアを把握した上での個別援助計画書の作成及び継続と評価をする。 3、報連相の徹底を図る。 <p><取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、専門知識の向上、ケアスキルの標準化 当施設のみならず法人間にて共同の専門知識向上の為に基礎研修を行ったが、介護職員の参加率は低く、継続してケアスキルのバラつき、認知症のご利用者様に対しての無関心さが目立つ。業務に追われる職員の表情に余裕がないようにも見受けられた。 2、個別ケアの継続、評価 個別援助計画書の作成段階で作成の仕方が分からない職員が多く、ご利用者が求めるニーズの把握に至らず、必要なケアが何か理解出来ていなかった。一人一人に個別援助計画書の作成指導を行うことで下半期には作成する意味や、必要なケアの本質を理解する職員も中には見受けられてきた。が、個別ケアの実践、継続、評価に関しては引き続き指導が必要。 3、報連相の徹底 下半期より組織体制を整えたことにより、報連相が確実に明確になり情報が滞ることが減り、多職種での情報が共有化されてきている。その場だけではなく、書面として残しておくことで記録が形となり、施設全体でケアにあたっている証拠が見に見えるようになってきている。 			

<次年度に向けて>

・一人一人の職員を大切に育成し、専門職のプロとしての意識向上を図る為に法人全体で職員教育に取り組み、次世代のリーダーを育成していく必要性もある。ご利用者様のニーズに対して応えられるようまずは職員のケアスキルの標準化、個別援助計画書の作成が出来るよう研修等を定期開催し、お互いがお互いを高め合えるような意識を持てるような環境を整えていきたいと考える。

『リスペクトケア』の実践の為に一人一人の職員とも向き合い、少しずつ意識を前へ向けられるように励んでいきたいと考える。

以上。

事業報告書

部署名称	介護係 3番街		
報告書作成日	2019年 4月 10日	責任者	鈴木 秀和
所属職員	勤務予定表参照		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><業務内容></p> <p>ご利用者様の必要な物品の補充、管理、居室の環境整備を行う ご利用者様の日常生活をアセスメントし個別援助計画書を作成、および見直しを行う 個別援助計画書に沿った援助サービスを行う 新人職員の教育、及び職員同士の連携</p> <p><年度当初の課題></p> <p>スキルの向上、ケアの標準化を図る 報告・連絡・相談の徹底 個別援助計画書の作成、継続し評価をする</p> <p><取り組みと成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルの向上、ケアの標準化を図る スキルの向上を図る為研修を企画していたが、介護職員の参加が少ない状態となってしまう、スキルの向上及び安定化せずにケアのばらつきが見受けられていた。業務を時間内に終わらせるために、その日その日の介護をしてしまい自己ルールが出来てしまう事が目立っていた。 ・報告・連絡・相談の徹底 その日に発見した出来事をリーダーに報告せずに、時間が経ってしまうという事が目立った。リーダーが連絡ノートを毎日作成し、その日出勤していない職員にも情報が行き届く様にしている。出勤前に必ず連絡ノートを確認する様に徹底、確認後は下駄版にサインする形にした。下駄版を確認すると、連絡ノートをチェックする事は徹底出来ていると思われるが、その後の業務で内容を理解できていない、数日経つにつれ忘れてしまうという事があった。ケアに対する事で疑問点があった場合は、リーダーに相談してもらおう様にしており、その意識は浸透している。また、ケアに対しこのご利用者様にはこうしたほうが良いのではないかとという相談もあり、リーダーにから上長に報告しモニタリングを実施する事もあった。 			

・個別援助計画書の作成、継続し評価をする

相談支援係が作成した月間スケジュールをもとに、担当の介護職員が個別援助計画書を作成している。個別援助計画書の作成方法を理解できていない職員が多数おり、リーダーと共に原案を作成し、相談支援係に提出、ケアプラン会議が開催されている。ケアプラン会議は、極力担当介護職員が出席できるよう調整し、ご利用者やご家族と今後の対応を話し合い、要望を取り入れ、個別援助計画書を完成させている。まだ個別援助計画書の作成が苦手な職員もいるが、時間をかけて指導できていないのが現状である。

継続についてはケアプラン会議終了後リーダーが連絡ノートに記載し周知を図っている。

<次年度に向けて>

次年度は、職員一人一人がスキルの向上とケアの標準化の意識を強く持ち、課題の解決に努めていきたい。また、研修等の教育で正しい知識と統一されたケアを身に着け、次に入職する職員にも育明会のケアを伝えていくことができるようにしていきたい。

リーダーの役割としては、職員への伝え方、連絡ノートの活用の仕方を工夫していくことに加え、理解を得られているか繰り返し確認し続けることを心がけたい。

以上

事業報告書

部署名称	キッチンエイド		
報告書作成日	2019年4月9日	責任者	米田 昭子
所属職員	別紙キッチンエイド勤務表参照		
報告期間	平成30年4月1日	～	平成31年3月31日 12ヶ月間
<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、昼、夕、おやつの時間帯に食事の準備、配膳、下膳、片付け等の食事ケア、環境面のサポートを行う。 ・新人職員への指導と育成の実施。 ・年間行事、クラブ活動のサポートを行う。 <p><年度当初の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> ①業務内容の統一化やご利用者の情報共有。 ②番街ごとの他職種との連携。 ③職員の定着化とチームワークの強化 <p><取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> ①エイド職員だけで集まり業務内容の確認を行うエイド会議、連絡ツールである「キッチンノート」に業務の変更事項や注意事項をまめに記録し、出勤時は必ず読む様に伝えてきたが徹底されなかった。これからも繰り返し伝えていく必要がある。 ②ご利用者に統一したサービスをお届けする為には、介護職員や看護職員との連携が大切と考えるがコミュニケーション不足により介護職員との連携が不十分と感じるキッチンエイド職員も見受けられた。もう少し積極的に自分から分からない事を質問する等のコミュニケーションを取る必要があると感じる。 ③キッチンエイド職員は現在18名在籍しており1年間退職者もなく皆で助け合いながら業務にあたってきた。行事へも積極的に参加しサブリーダー2名を立てた事で連携が上手くいく様になり働きやすくなった。幅広い年齢層の方がいて人数も多いが、これからも協力し合って働きやすい環境作りをしながらキッチンエイド全体で成長する必要がある。 <p><次年度に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の知識だけではなく、育明会の理念についても理解を深めていきたい。 ・認知症の方に対しての声掛けについて学び理解を深め、上手な声掛けを身に着け、ご利用者の生活がもっと落ち着いたものになる様にしたい。 ・新しく入職したキッチンエイド職員の育成方法をマニュアル化したい。 <p style="text-align: right;">以上。</p>			

事業報告書

部署名称	リネンエイド		
報告書作成日	平成 31 年 4 月 10 日	責任者	西山奈智子
所属職員	中野枝里子、鈴木和代、山崎佳代、侯鉄英		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><業務内容></p> <p>リネンの人員 4名（シフト制）</p> <p>1. 活動日 月曜日～金曜日</p> <p>2. 活動内容 [9:45～13:45] ご利用者のリネン交換（包布、枕、シーツ、ラバー） ご利用者の居室の清掃と換気 各番街の介護材料室のリネン類の在庫確認・補充 酢酸アルコールによる清掃（週に一度／特定の居室に限る）</p> <p>3. その他 ・イベントお手伝い</p> <p><年度当初の課題></p> <p>①入居者数の増加に伴い、1日のスケジュール・1週間のスケジュールの見直し →入居者様の行動パターンを知り、CWと協力して、ご利用者に負担が少ないよう、 効率良くリネン交換を進める →リネン交換の質を保ちながら、雑にならないように、スピードを上げる</p> <p>②新しい入居者の居室準備を、不備の無いよう行う →相談係と連携し、ベット・布団・枕等の在庫確認をあらかじめ行い、 チーム全員で確認し合う</p> <p><取り組みと成果></p> <p>リネン交換後、清潔なお部屋で過ごして頂くことにより、心身共に快適に過ごして頂けるお手伝いが出来、利用者様より『ありがとう』の言葉を頂き、リネンチーム一人一人がやり甲斐を感じて仕事が出来るようになった</p> <p>チーム全体のスピードが上がり、効率よくリネン交換が出来るようになった</p> <p>居室のいつもと違う変化に気付き、リーダーへ報告することでより良いケアのお手伝いが出来た</p> <p>ストッパーのかけ忘れ、道具の置き忘れなど絶対にしないように、チーム全員で確認し合うことが出来た</p> <p><次年度に向けて></p> <p>以上の点を、引き続き継続していきたい</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

事業報告書

部署名称	洗濯エイド		
報告書作成日	平成 31 年 3 月 28 日	責任者	植田 恵津子
所属職員	吉岡明美、秦明子、劉幼君、植田恵津子		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日
			12 ヶ月間
<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の衣類の選択及び出来上がり衣類の配布 ・洗濯表示を確認の上、手洗い、おしゃれ着洗い、一般衣類の分類後に洗濯 ・乾燥機を使用できない衣類は部屋干し、一般衣類は乾燥機に掛ける ・洗濯乾燥後、名札による仕分け、ほつれ、ボタン、ウエストゴムなどの補修 ・各行事に使用した衣類、テーブルクロス、ランチョンマット、エプロン等の洗濯とアイロン掛け ・業務終了後、洗濯室内外の掃除、ガス元栓チェックを行い、申し送り作成 <p><年度当初の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物を丁寧に扱う ・利用者へ正確に届ける ・時間配分を考え、時間を有効に使う <p><取り組みと成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者が増える中、点検をしっかり行った ・間違いを無くすために利用者の名前を声に出して作業を行った ・効率を考え、洗濯機と乾燥機を空き時間の内容に作動させた ・洗濯物を配布するカートを 2 台に増やしたため、時間の効率化につながるとともに、身体的な負担も軽減され、大変良い結果が得られている <p><次年度に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、新規利用者の受け入れに伴い、洗濯方法、順序などを再考する ・アイロンを 1 台追加していただきたい 			
			以上

事業報告書

部署名称	看護係		
報告書作成日	2019/4/11	責任者	山崎 なみき
所属職員	山崎なみき 清水幸子 大城栄津子 田代さとみ 大矢美奈子 椎葉治美 平山美枝子 小野悠希		
報告期間	平成 30 年 4 月 1 日	～	平成 31 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><業務内容></p> <p>看護処置、内科、精神科医師による回診介助、受診時の病院連絡・家族連絡調整 入退院時の病院連絡・情報提供、服薬確認、緊急時対応、 感染予防対策、看護計画作成</p> <p><年度当初の課題></p> <p>①職員の入れ替わり及び入居者増加に伴うケア方法統一 ②多職種との連携統一 ③インフルエンザ、ノロウイルス等流行時期の感染予防、感染時の拡大防止</p> <p><取り組みと成果></p> <p>① 職員の退職に伴い、新たな職員が入職したが業務内容がスムーズに移行できるツールの作成 今まで使用していた処置表（チェック表）は各番外には分かれていたものの、各職員の使用しやすいうように各々にて変更されており、統一性がなかった。そのため、新入職者に対しバラバラの指導となり仕事内容がスムーズに移行できなかった。 処置表を見直し修正を行い、各番外・ユニットごと・居室番号順とし統一性を図り、職員からの意見で、入浴曜日、時間を記載し予定を立てやすくした。 以上の変更を行ったことにより、入居者への処置予定を立てやすくなり作業効率が上がった。指導する側としてもユニットごとでの対応ができるため指導、確認がしやすくなった利点があげられる。 現在、新たに入職した看護師が定着しており、効率的な作業が行えるようになってきている。今後の事を踏まえ、他看護師の意見を取り入れさらに使いやすいチェック表の改善に努めていきたい。 処置だけではなく、他業務に関してもマニュアルはあるものの、現在の業務にそぐわないものもみられるため、見直し修正を図っていく。</p> <p>②多職種との連携統一 体調不良者、転倒者等があった場合、介護士から看護師への連絡はあるものの、その後報告を他職種、介護リーダーへの結果報告などをしないということが続いた。</p>			

職場には各々の職種があり、チームとして働いていることへの再認識、及び連絡方法につき再確認し、看護師間で周知を行い入居者についての報告を行えるようにした。

徐々に、リーダー報告を行えるようになってきているが連絡をしないことが散見する為、看護師間での確認を都度行っていきたい。

③インフルエンザ、ノロウイルス等流行時期の感染予防、感染時の拡大防止

感染予防対策委員会との協力により、感染予防（手洗い、うがい等）の注意喚起を行った。

感染症流行時期には、感染症の疑いがあった場合の早期居室対応、嘔吐時の消毒の徹底することで施設内での発生の予防ができた。

職員家族のインフルエンザ発症者があったが、職員の発症、入居者の発生なく過ごせた。

<次年度に向けて>

- ・新たな職員への業務拡大が図れるよう、業務に沿ったマニュアルの修正および入居者情報、処置変更事項など職員間での伝達を確実にし、ケアの統一性を図っていく
- ・各々の業務が偏らないよう、看護だけの仕事だけでなく他職種の仕事内容・流れなどが理解できるよう様々な行事、他職種とかかわりあえる機会を設ける。
- ・インフルエンザ、ノロウイルスだけでなく年間を通して様々な感染症が発症する。入居者のみならず職員の体調管理にも留意し、感染症発症・拡大の予防を継続していく。
また、皮膚疾患での感染拡大に留意し介護士の協力のもと皮膚状態の観察、異常発見時の連絡を行っていき皮膚疾患発生予防に努めたい。

以上

事業報告書

部署名称	相談支援係																																						
報告書作成日	2019年4月15日	責任者	佐藤 直明																																				
所属職員	佐藤直明（相談支援係長）・大金美保（副主任）																																						
報告期間	2018年4月1日	～	2019年3月31日 12ヶ月間																																				
<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所に関する業務。 ・給付管理及び利用請求に関する業務 ・相談に関わる業務。（特養・ショートステイ） ・入所検討者等の見学・面談の対応。 ・ケアマネジメント関係…ご家族・ご本人を交えたケアプラン会議の開催。 ・預り金の管理、利用料金の請求・管理業務。 ・介護保険申請業務の補助…介護保険更新時、区分変更時にご家族へ申請補助を行い、認定調査の立ち合いを行った。 ・年間行事のサポート業務。 <p><年度当初の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本入所を満床にし、ショートステイ事業の安定稼働を目指し、利用稼働率90%を目標とする。 <p><取り組みと成果></p> <p>1、利用者ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族懇談会の開催…2018年3月22日（28家族40名）、入居者状況の説明、介護保険制度改正に伴う重要事項の変更について、質疑応答。 ・利用者懇談会の開催 2018年11月27日 27名出席 たい焼きをお出しし、お茶を頂きながらご利用者のニーズ・意見を伺った。 <p>2、稼働率について</p> <table> <tr> <td>4月</td> <td>：ユ) 79.1%</td> <td>従) 31.8%</td> <td>5月</td> <td>：ユ) 76.0%</td> <td>従) 31.8%</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>：ユ) 75.7%</td> <td>従) 31.8%</td> <td>7月</td> <td>：ユ) 76.1%</td> <td>従) 30.6%</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>：ユ) 79.4%</td> <td>従) 30.0%</td> <td>9月</td> <td>：ユ) 79.1%</td> <td>従) 31.9%</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>：ユ) 79.2%</td> <td>従) 52.0%</td> <td>11月</td> <td>：ユ) 77.1%</td> <td>従) 65.1%</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>：ユ) 74.1%</td> <td>従) 73.3%</td> <td>1月</td> <td>：ユ) 75.5%</td> <td>従) 79.5%</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>：ユ) 74.1%</td> <td>従) 81.6%</td> <td>3月</td> <td>：ユ) 75.2%</td> <td>従) 82.9%</td> </tr> </table>				4月	：ユ) 79.1%	従) 31.8%	5月	：ユ) 76.0%	従) 31.8%	6月	：ユ) 75.7%	従) 31.8%	7月	：ユ) 76.1%	従) 30.6%	8月	：ユ) 79.4%	従) 30.0%	9月	：ユ) 79.1%	従) 31.9%	10月	：ユ) 79.2%	従) 52.0%	11月	：ユ) 77.1%	従) 65.1%	12月	：ユ) 74.1%	従) 73.3%	1月	：ユ) 75.5%	従) 79.5%	2月	：ユ) 74.1%	従) 81.6%	3月	：ユ) 75.2%	従) 82.9%
4月	：ユ) 79.1%	従) 31.8%	5月	：ユ) 76.0%	従) 31.8%																																		
6月	：ユ) 75.7%	従) 31.8%	7月	：ユ) 76.1%	従) 30.6%																																		
8月	：ユ) 79.4%	従) 30.0%	9月	：ユ) 79.1%	従) 31.9%																																		
10月	：ユ) 79.2%	従) 52.0%	11月	：ユ) 77.1%	従) 65.1%																																		
12月	：ユ) 74.1%	従) 73.3%	1月	：ユ) 75.5%	従) 79.5%																																		
2月	：ユ) 74.1%	従) 81.6%	3月	：ユ) 75.2%	従) 82.9%																																		

・利用者状況（2018年3月31日現在）

最高年齢：102歳 男性：92歳 女性：102歳
 最低年齢：61歳 男性：61歳 女性：61歳
 平均年齢：85.11歳 男性：80.70歳 女性：86.68歳
 平均介護度：4.12 男性：4.35 女性：4.04

・入所・退所状況（上段：ユニット型 下段：従来型）

	入 所			退 所		
	男性	女性	計	男性	女性	計
4月	0	0	0	0	2	2
	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	1	1
	0	0	0	0	0	0
7月	0	2	2	0	0	0
	0	0	0	0	1	1
8月	0	1	1	0	0	0
	1	0	1	0	1	1
9月	0	0	0	1	0	1
	3	4	7	0	1	1
10月	0	1	1	1	0	1
	3	5	8	0	0	0
11月	0	0	0	0	2	2
	1	2	3	0	0	0
12月	0	1	1	0	1	1
	2	4	6	1	0	1
1月	0	2	2	0	1	1
	0	0	0	0	0	0
2月	0	1	1	1	2	3
	0	1	1	0	0	0
3月	1	2	3	0	0	0
	0	1	1	0	0	0
計	1	10	11	3	9	9
	10	17	27	1	3	4
	11	27	38	4	12	16

・入所者数 38名（男性：11名 女性：27名）

・退所者数 16名（男性：4名 女性：12名）

<退所者内訳>

- ・2018年10月より都筑シニアセンター併設クリニック協力のもと看取り対応をさせて頂いている。
- ・当施設で看取りケアを行った人数は2名。入院中等で病院にて死亡された方は8名・
- ・長期入院等：1名。療養型医療施設入所：2名。介護老人保健施設入所：1名。
- ・在宅：2名

<2018年度総括>

- ・本年初頭の目標としていた、入所満床に関しては達成する事が出来ず、またショートステイ事業
についても稼働する事が出来なかった。多床室入所に関しては2018年10月より受け入れを急
ピッチで行った。
- ・ケアプラン会議に関して、スケジュールについて明確化し実施する事が出来る様になった。

<次年度に向けて>

- ・入所居室に関しては満床とする事を急ぎ稼働率維持を目標としていく。
- ・ショートステイ事業についても受け入れを開始し、かつ稼働率アップにつながるよう居宅介護
支援事業所と連携を行いながらサービスを行い、リピート利用者のニーズをつかむように努力
してくと共に、フロント業務としえの受け入れ体制を構築し、介護職員が不安を感じないでケ
アに当たっていただけるよう注意を払っていく。
- ・ケアプランについても、スケジュール管理・見直しを確実に行っていき、担当職員への研修を
行っていくと共に、調整や書類の見直しも図りスムーズに実施していくよう、フロア職員と
チームで対応する。
- ・計画書について、説明不足や同意書への確認記入が遅くなってしまう事もあった為、計画書の
管理についてもチェック体制を画一していく事が課題である。
- ・ニーズを把握し、それらに的確に素早く対応する体制 ～ワンストップサービス～の充実
また、ご利用者・ご家族との信頼関係構築する事にも務め、懇談会等を通して施設運営に対す
る
取り組みの報告や成功の共有を図っていきたい。
- ・給付管理については、介護請求及び利用請求に関わる情報を正確に把握、給付管理ソフトに正
確にデータ入力し、イレギュラー件数をなくしていきたい。

以上

